

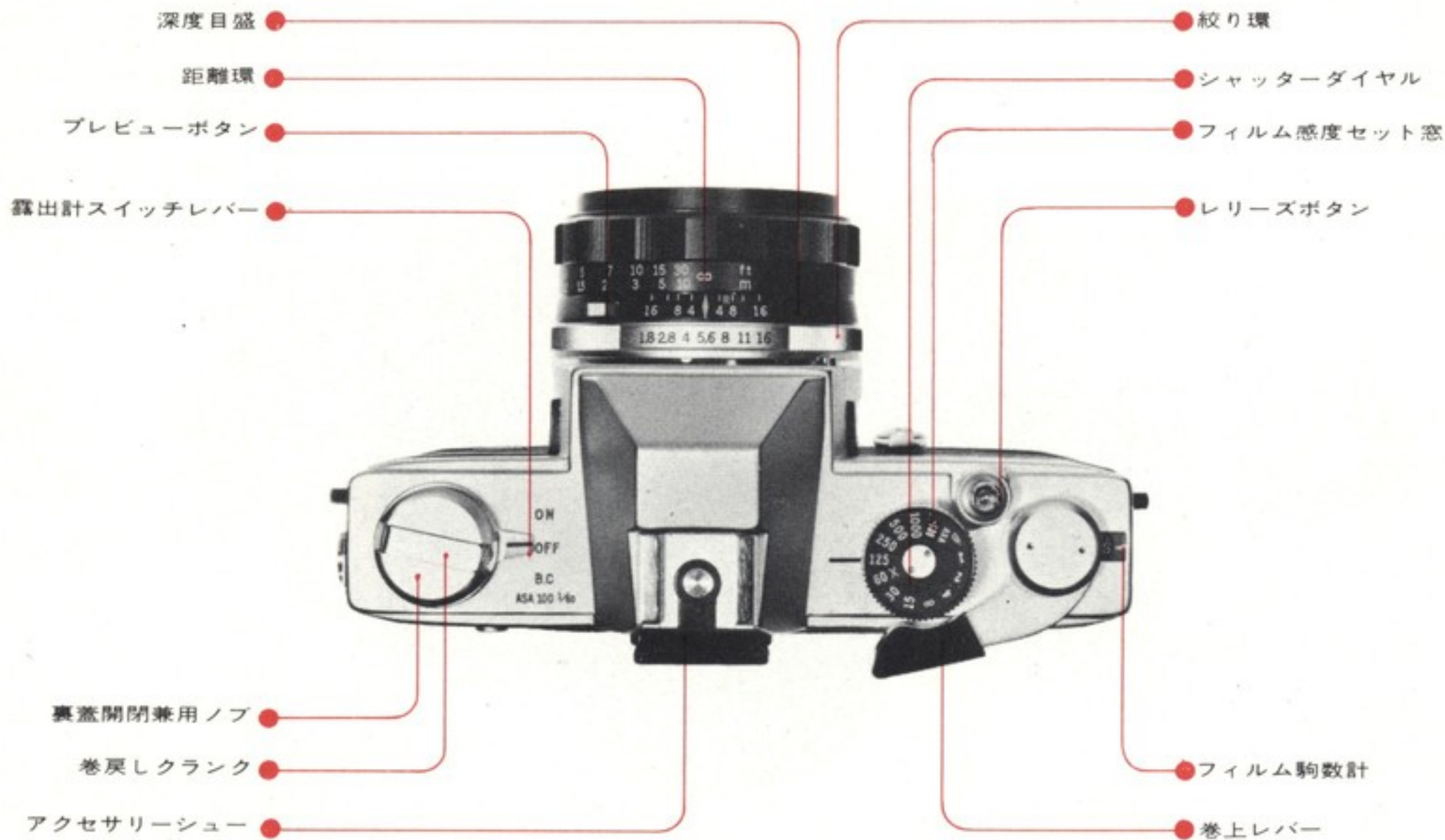
J



●使用説明書

● 各部の名称

● 操作部がすべて上から見える人間工学に基づいた設計です。



シャッターダイヤル

リリースボタン

吊り金具

フィルム巻戻し
・裏蓋開閉兼用ノブ

シンクロソケット
(FP・X接点切換レバー)



セルフタイマーレバー

レンズ着脱ボタン

プレビューボタン

レンズ

ファインダー接眼枠 ●
フィルム巻戻し軸 ●

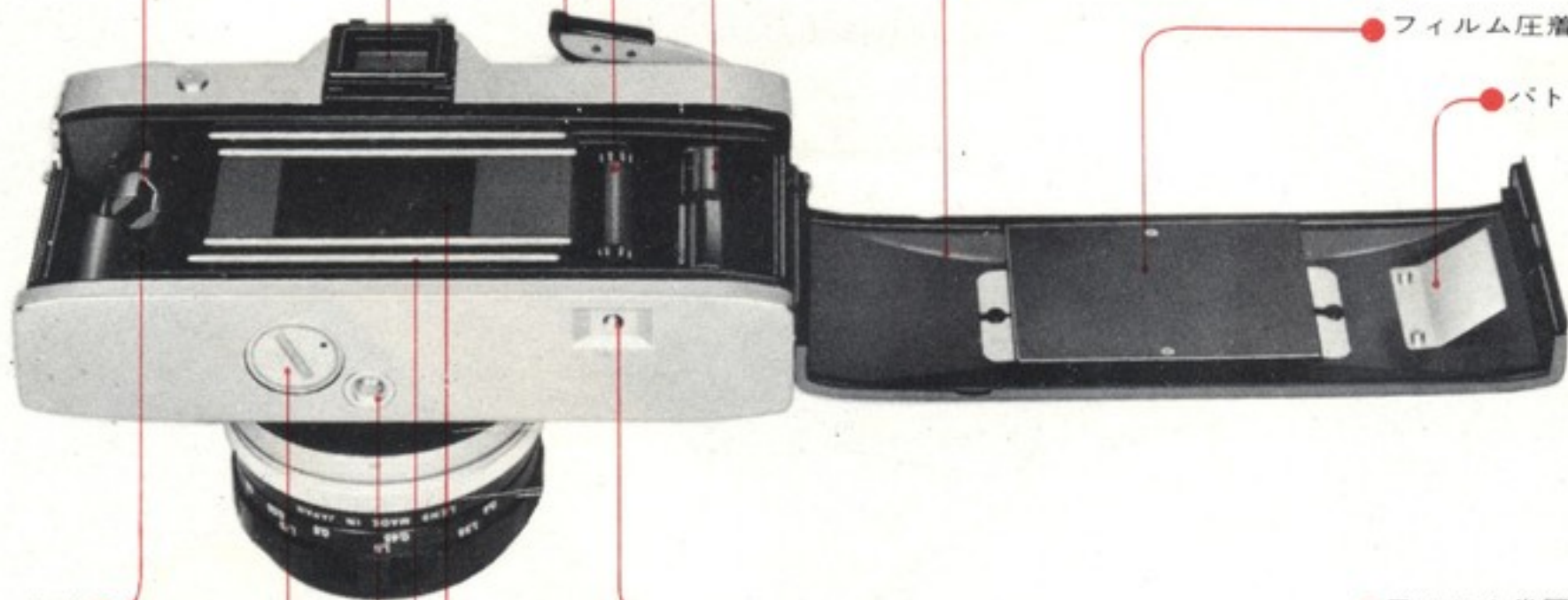
フィルム巻上レバー ●
スプロケット ●

巻取りスプール ●

裏蓋 ●

フィルム圧着板 ●

バトローネ押え ●



バトローネ室 ●

水銀電池室 ●

三脚穴 ●

フィルム巻戻しボタン ●

シャッター幕 ●

フィルムガイドレール ●

お買上げありがとうございます。
オリンパスFTLは、プラクチカマウントで、世界最初の開放測光式TTL一眼レフカメラです。あなたの愛機として末ながくご愛用ください。傑作を写すには、まずカメラをよく知ることが先決です。撮影に入る前に、この説明書をよく読み早く自分のものにしてください。

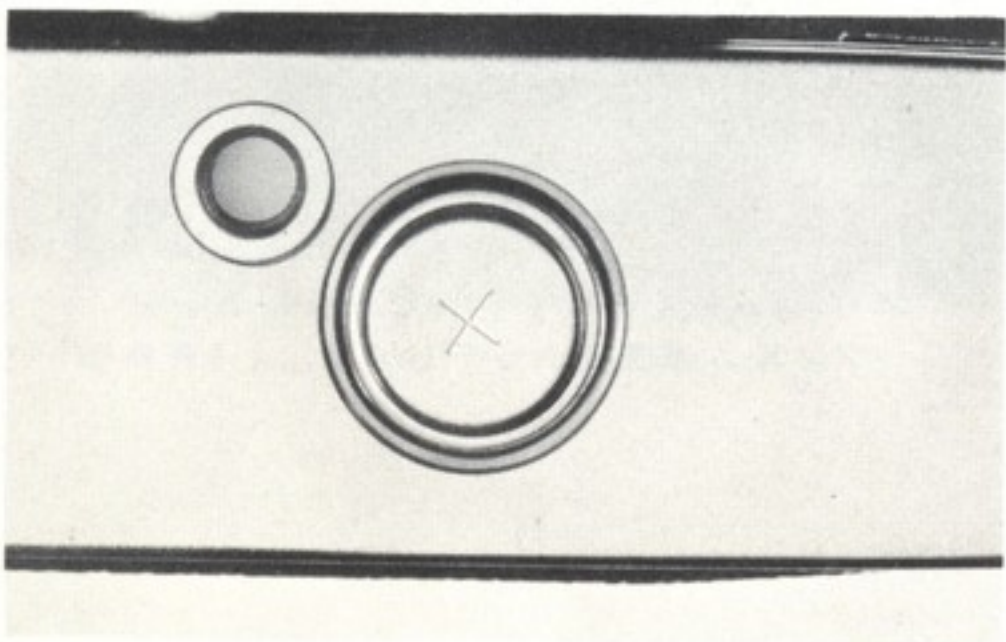
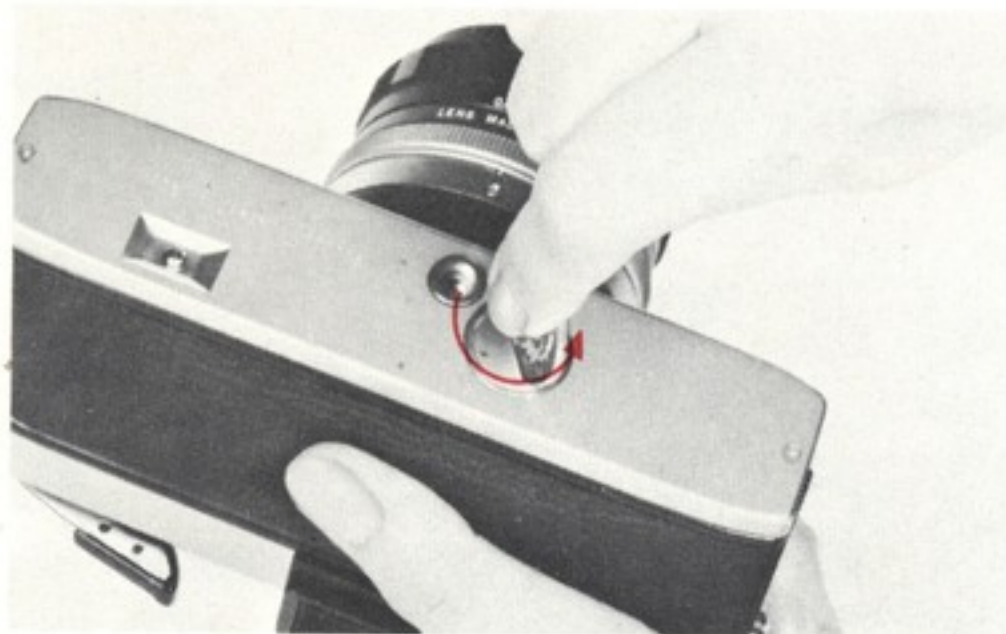
● 目次

●各部の名称	1	●特殊な露出のテクニック	23
●おもな仕様	5	●ピントの合わせかた	25
●水銀電池室	6	●被写界深度	27
●撮影の基本手順	7	●被写界深度表	28
●フィルムの入れかた	11	●カメラの構えかた	29
●フィルム巻上レバーとフィルム駒数計	15	●フィルムの巻戻しかた	30
●フィルム感度セット窓	16	●レンズ交換のしかた	31
●シャッターダイヤル	17	●FTL用ズイコー交換レンズ	32
●絞り環	18	●フラッシュ撮影のしかた	33
●露出計スイッチレバー	19	●セルフタイマーの使いかた	35
●TTL露出計	20	●FTL用各種アクセサリ	36
●露出の決めかた	21	●カメラ保管上のご注意	36

●おもな仕様

- 形式：35ミリフォーカルプレーンシャッター式、一眼レフレックスカメラ
- 画面サイズ：24×36mm
- レンズ：ブラックマウント、フランジバック42mmねじ込み式、定位置ロック装置付
■標準レンズはF1.8とF1.4 最近接撮影距離40cm
●F.ズイコーオートS F1.8f=50mm 5群6枚
●G.ズイコーオートS F1.4f=50mm 6群7枚
- シャッター：フォーカルプレーンシャッター B.1~1/1000秒
- シンクロー：FP・X接点切換付
- ファインダー：ペンタプリズムファインダー 0.92倍(標準レンズ) フレネルレンズおよびコンデンサーレンズ使用
メーター指針と追針およびバッテリーチェックゾーン表示
- ピントガラス：中心部マイクロプリズム、周辺マットによるピントガラス
- ミラー：縦開きクイックリターンミラー
- フィルム装填：イージー・ローディング
- フィルム巻上：レバー式、小さざみ巻上可能、巻上角148° 予備引出角18° セルフコッキング、二重巻上防止、二重露出防止
- フィルム駒数計：順算式、自動復元
- フィルム巻戻し：クランク式、巻戻しボタンセット式
- レビューボタン：オート・マニュアル切換式兼用ロックボタン
- 露出計：TTL式(CdS 2個使用)、開放測光式平均光量測定
フィルム感度・シャッタースピード・絞り値に連動する追針式(測光限界赤マーク表示)専用レンズ以外は絞り込み測光可能。
- 測光範囲：F1.8付でASA100のときEV 3~18
- 電源：水銀電池(JIS・H-D型)1.3V 1個使用、バッテリーチェッカーおよび電源スイッチ付
- フィルム感度目盛：ASA25~2,000
- セルフタイマー：レバー式(90°)、約10秒
- 裏蓋開閉：蝶番式、マジックロック
- アクセサリーシュー：コードレス接点付
- フィルター径：標準レンズは49mmねじ込み式
- 大きさ・重量：(F1.8付) 140×91×84mm、830gr
(F1.4付) 140×91×94mm、900gr
(ボディのみ) 140×91×53mm、635gr

● 水銀電池室



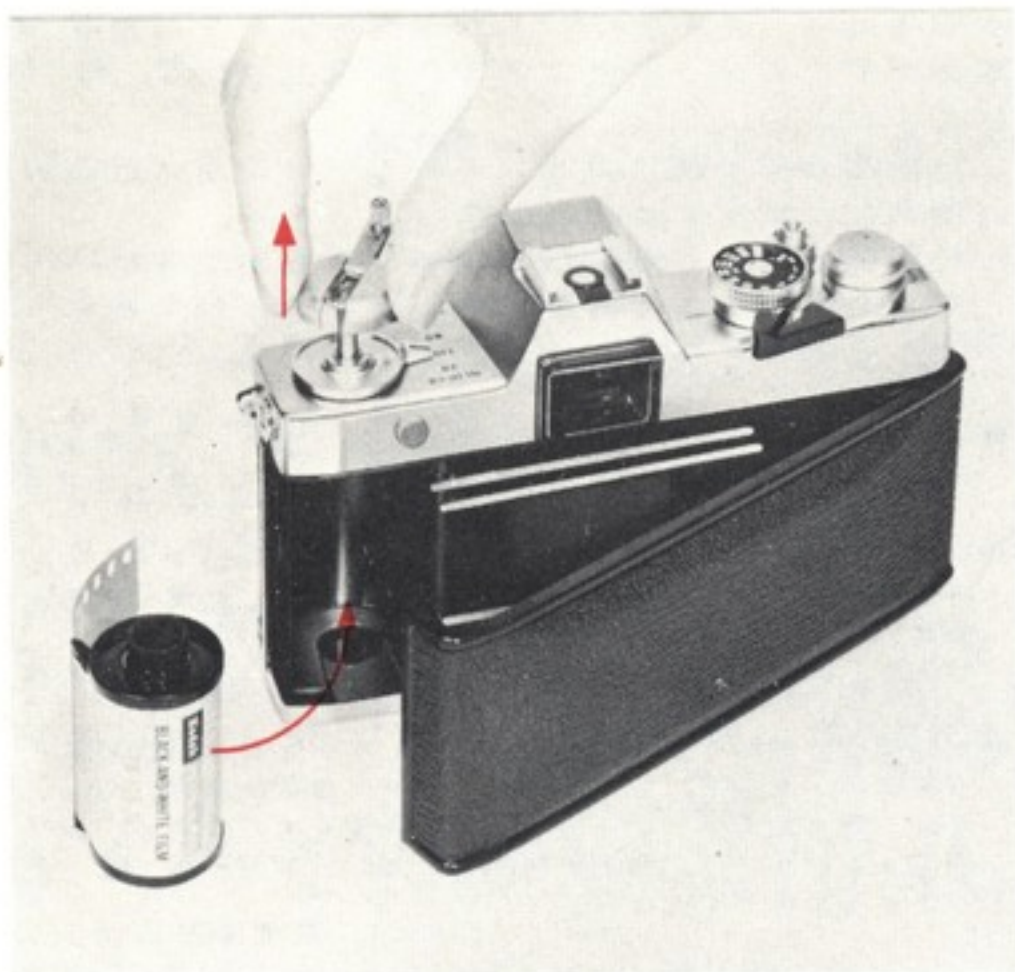
水銀電池は、カメラのTTL露出計を働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

1. 水銀電池室の溝にコインをあてがい、左（反時計方向）に回すとはずれます。
2. 水銀電池（H-D型1.3V）1個を、写真のように（+）文字の書いてある方が外側になるように入れて、蓋を元通りしっかりねじ込んでください。

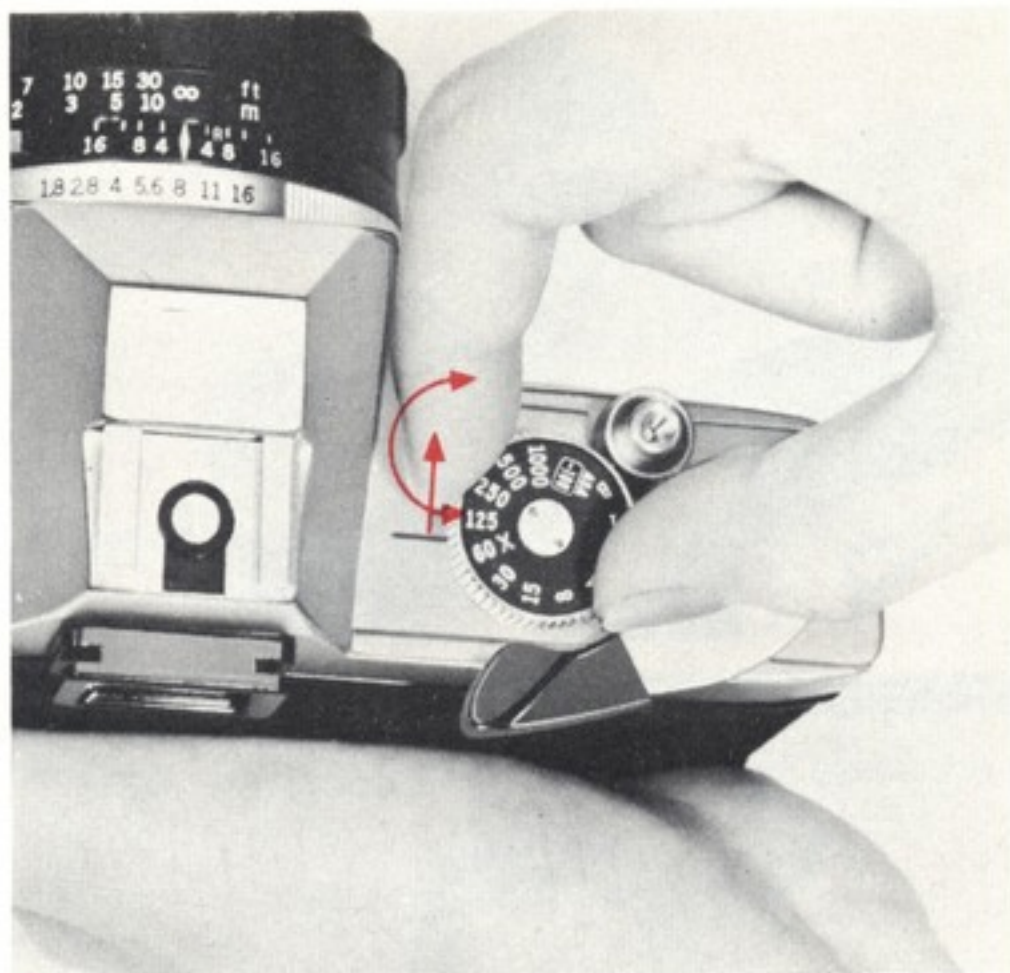
〈注意事項〉

- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、TTL露出計が働かなくなります。電池の寿命の有無をチェックする方法は、19頁をご参照ください。
- 一般に水銀電池の寿命は、普通に使って約1年位です。その時期がきたら新しい電池と交換してください。使用できる水銀電池は、H-D型1.3Vです。外国製品のH-D型1.3Vには、Mallory PM-625R、GENo.625、Eveready E625などがあります。
- 水銀電池の消耗を防ぐために、撮影しないときは露出計スイッチレバーをOFFにしてください。また長期間使用しないときは、電池をカメラから取りだして保管してください。次に使用するときには、電池の表面を乾燥した清潔な布でよく拭いてから入れてください。

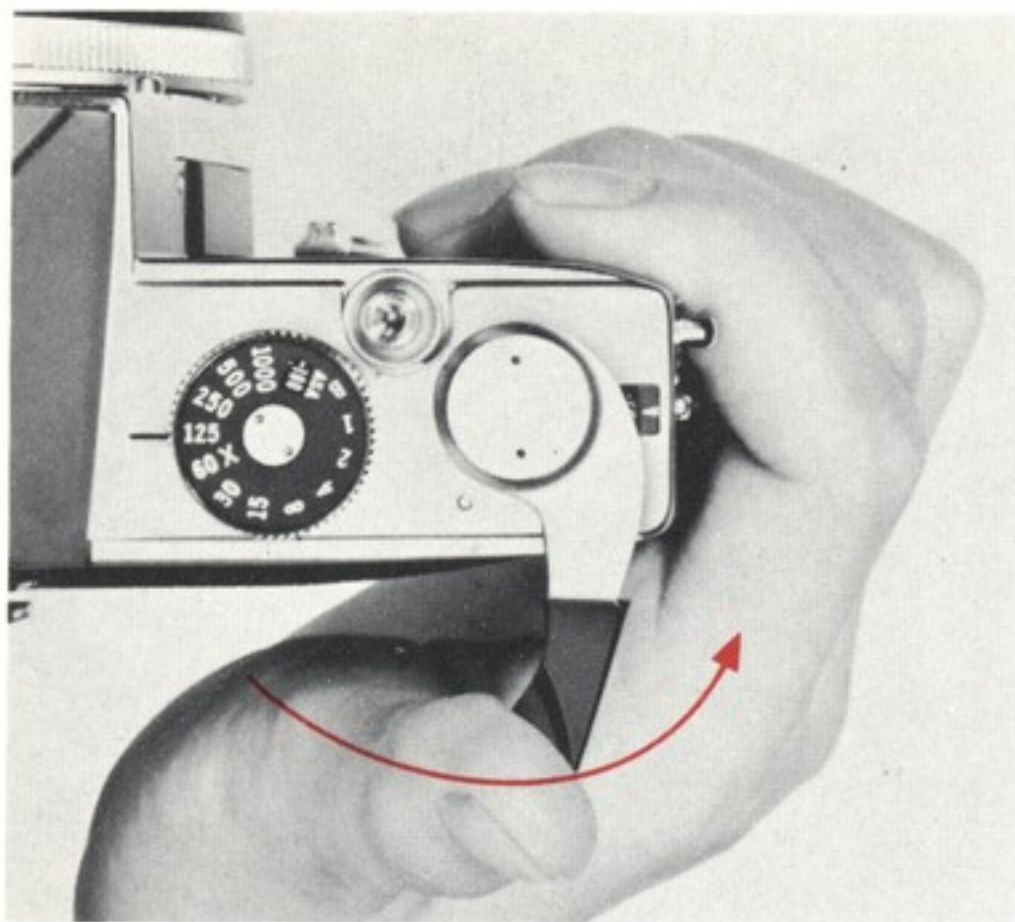
●撮影の基本手順



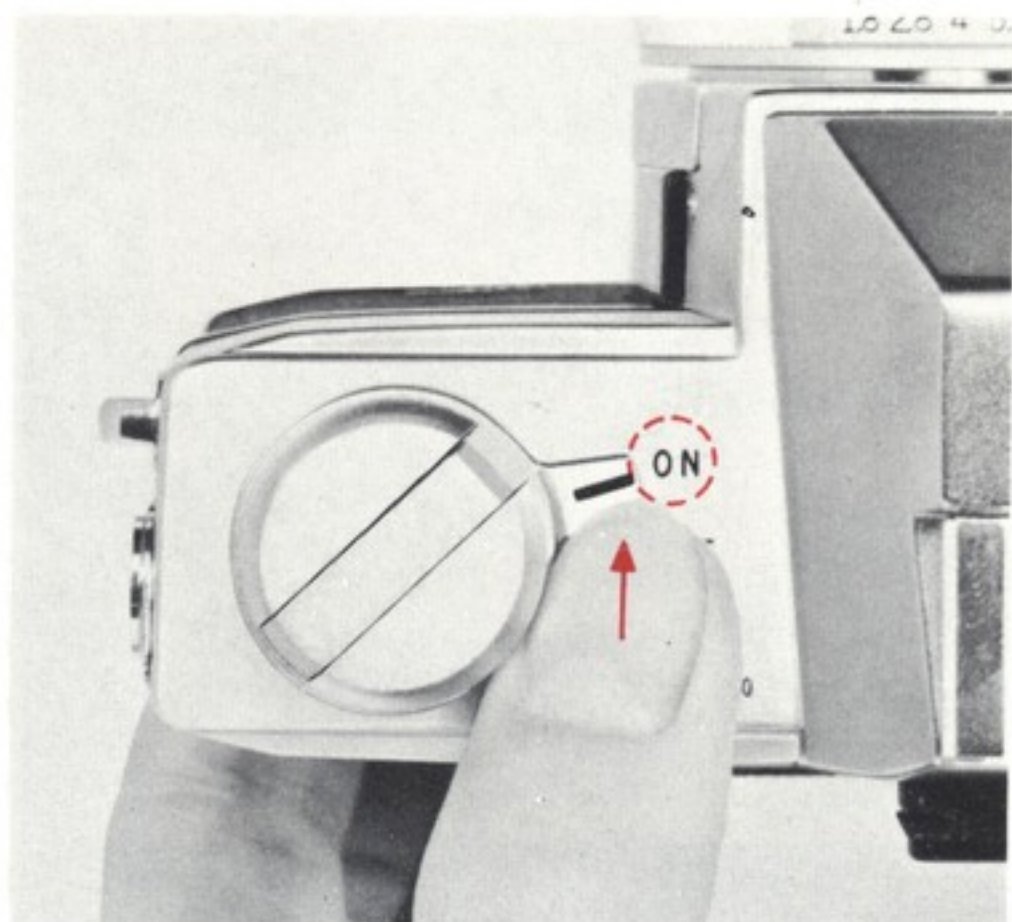
1 フィルムを入れます。(11頁参照)



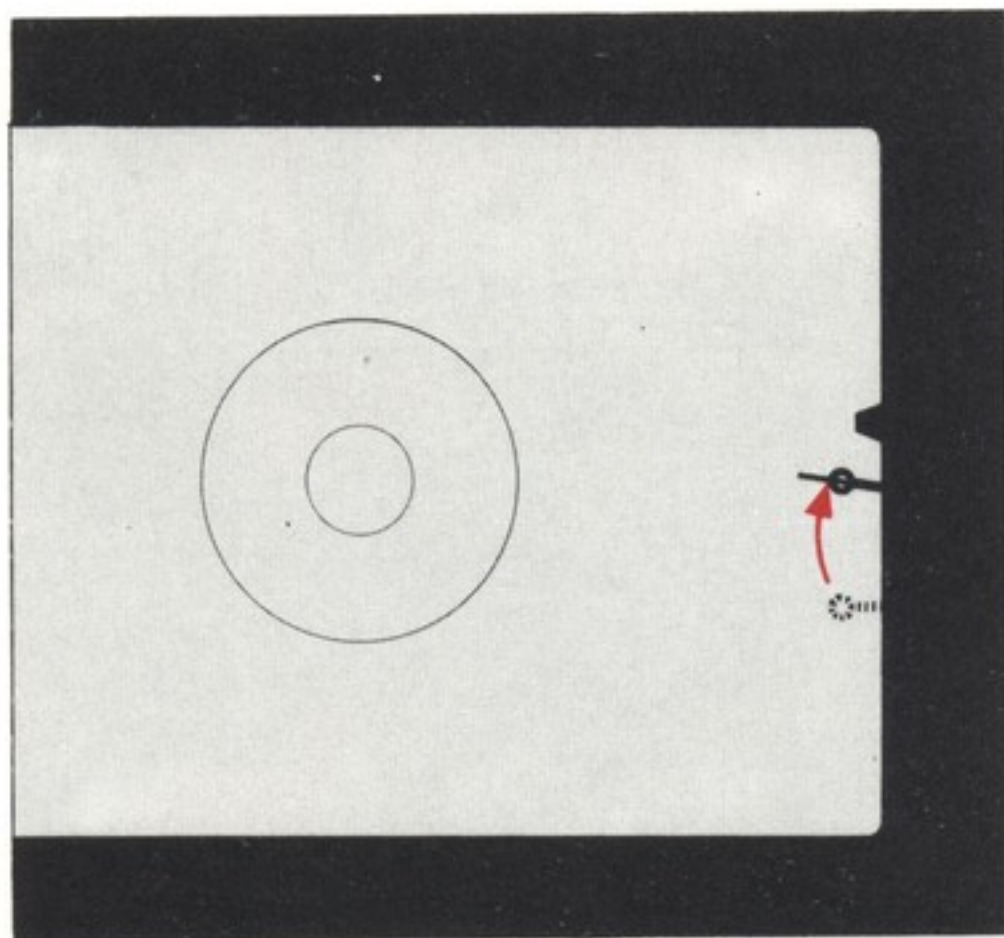
2 フィルム感度をセットします。(16頁参照)



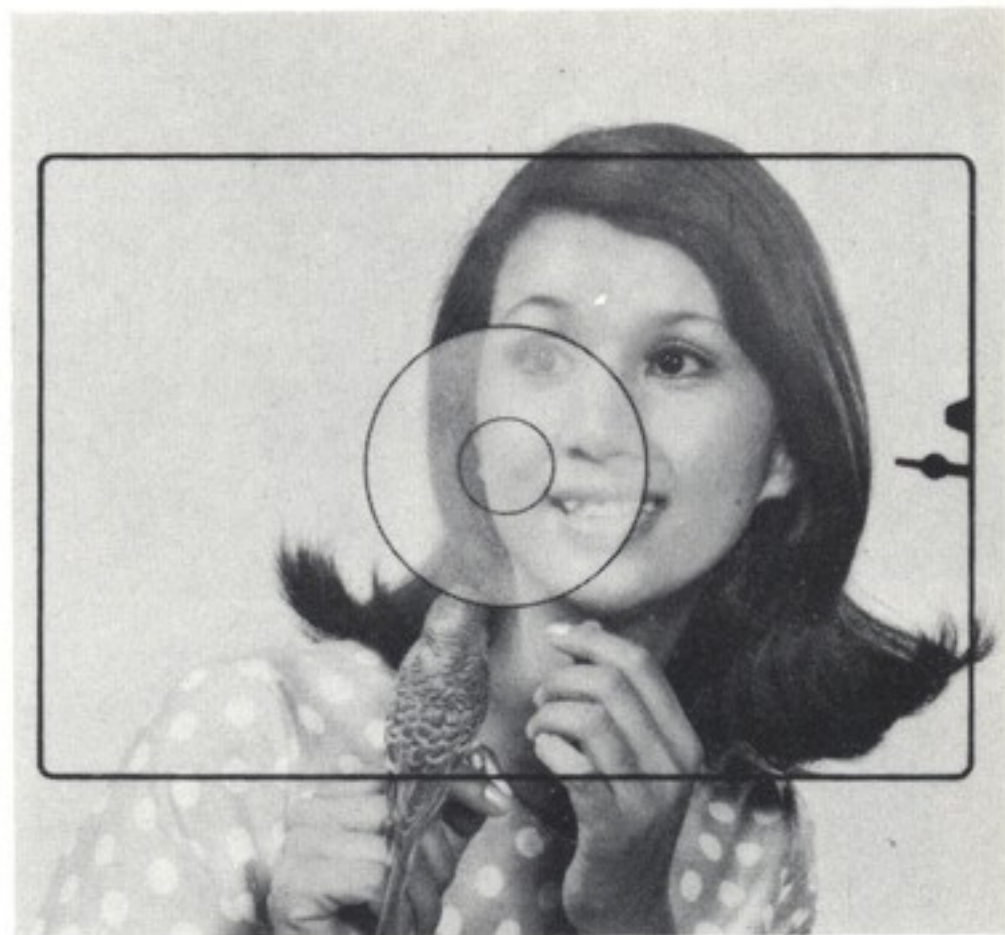
3 フィルムを巻上げます。(15頁参照)



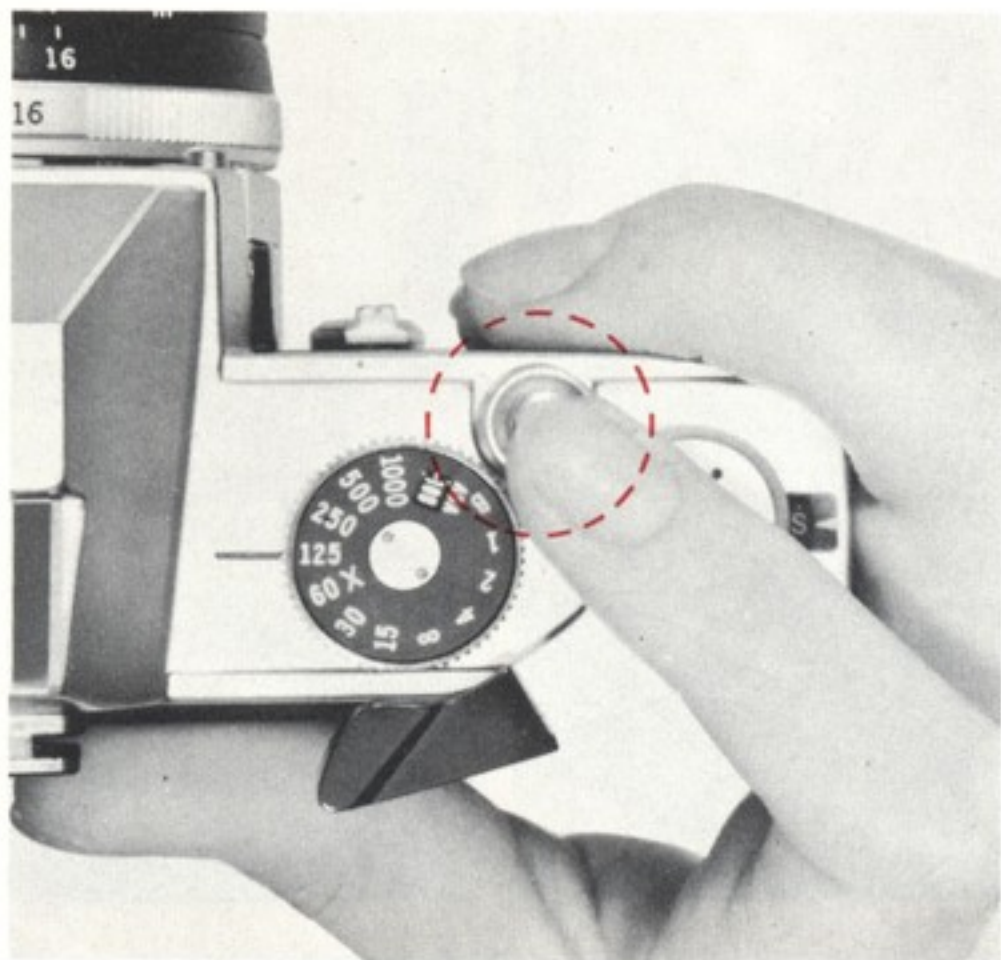
4 露出計スイッチレバーをONにします。
(19頁参照)



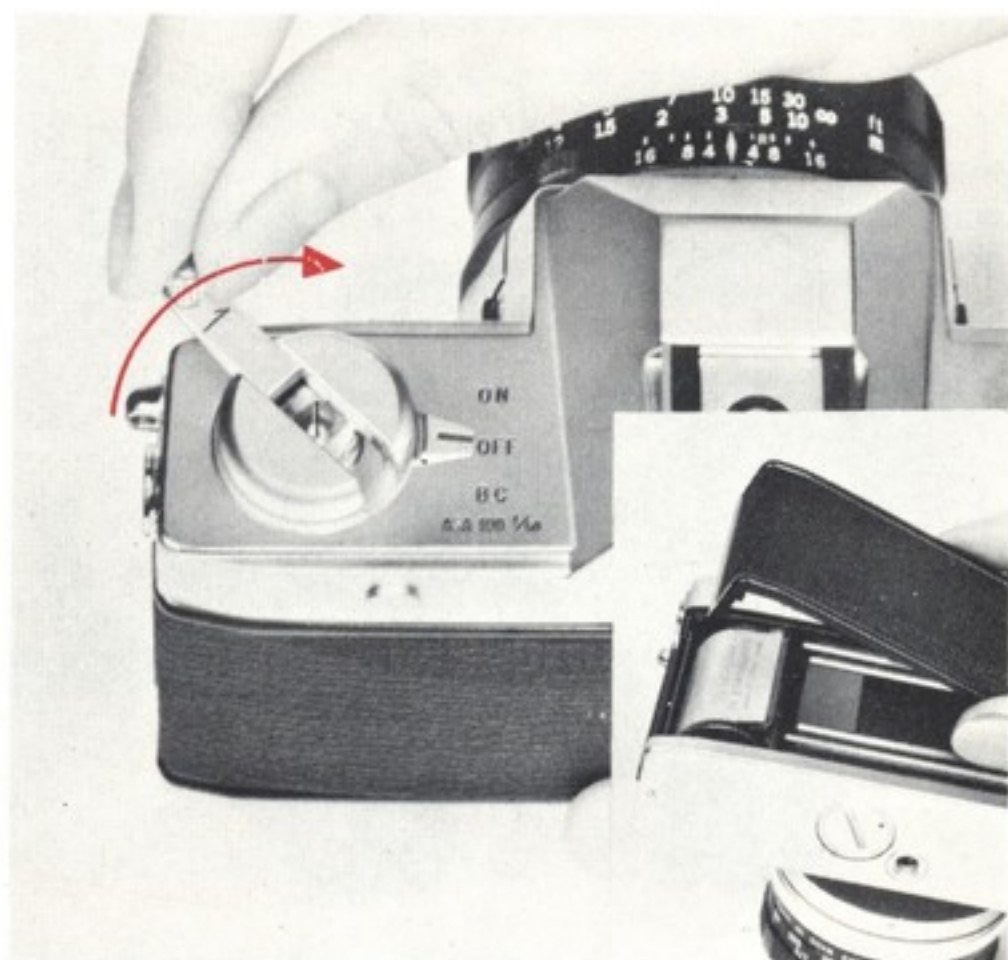
5 露出を決めます。(21頁参照)



6 構図を決めて、ピントを合わせます。
(25頁参照)



7 カメラをしっかり構え、レリーズボタンを静かに押します。(29頁参照)



8 撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。(30頁参照)

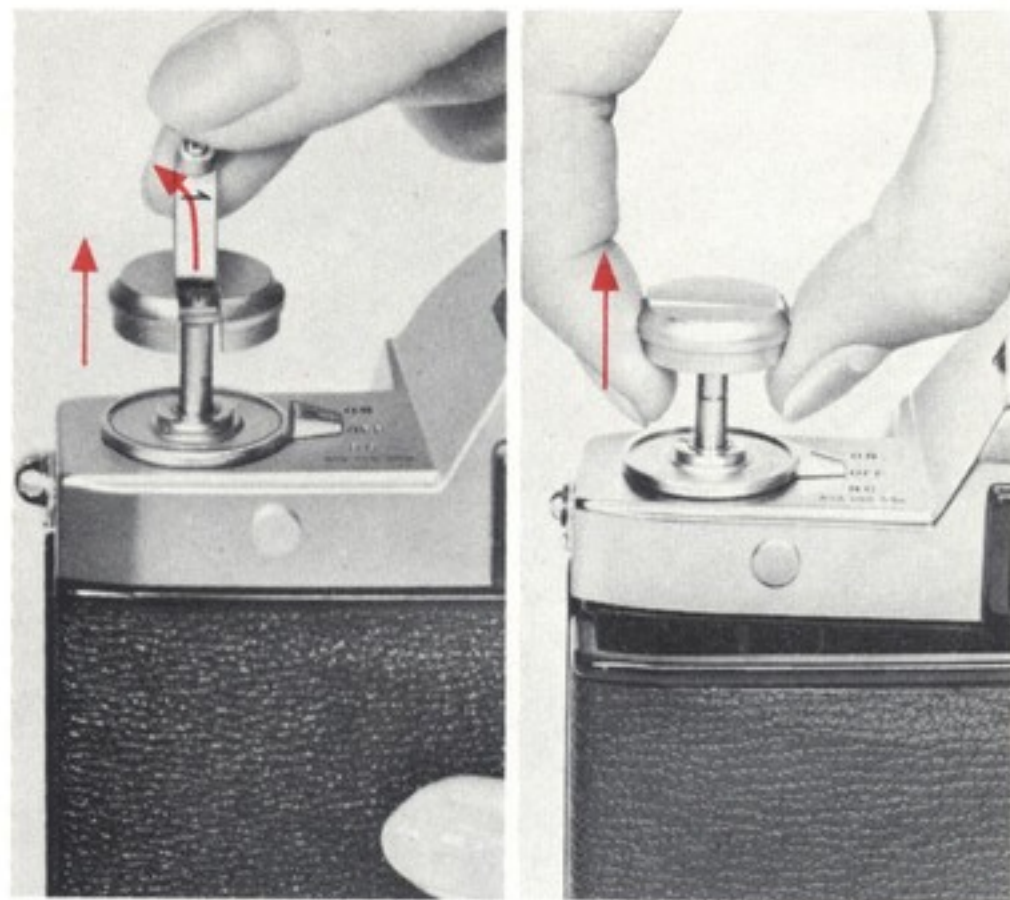
● フィルムの入れかた

フィルムは、一般のパトローネ入り35ミリフィルム（12枚、20枚、36枚撮りの3種ある）を使います。フィルムは、イージー・ローディングの採用により、確実にしかも簡単に入れられます。

巻取りスプールの溝（5つありますが差込みやすい所ならどこでも結構です）に、フィルムの先端を差込むだけ。もうフィルムの先がはずれるといった失敗はありません。

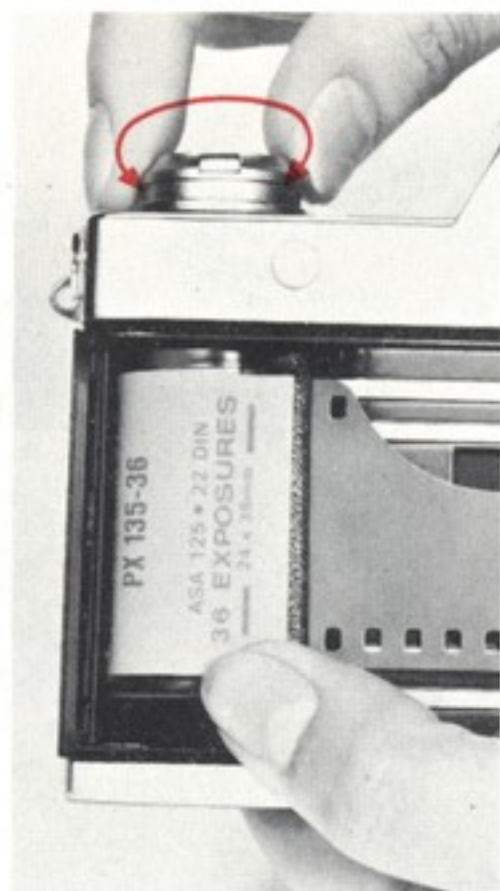
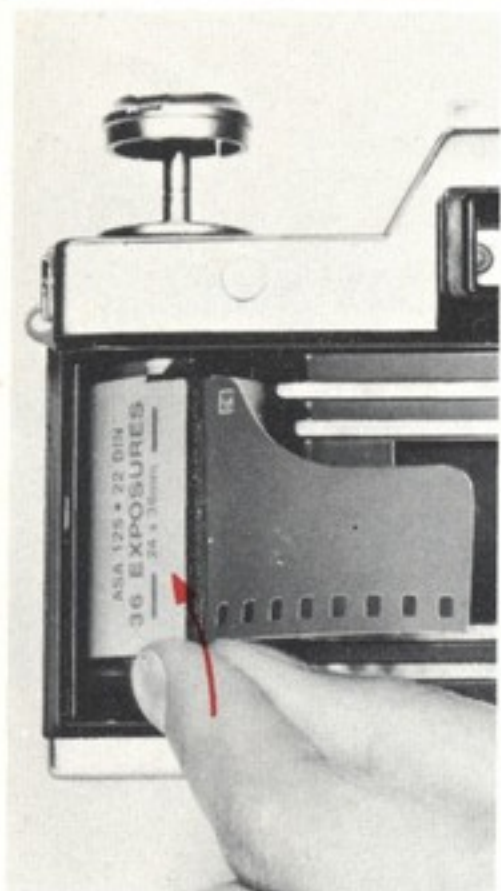


フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行うようにしてください。



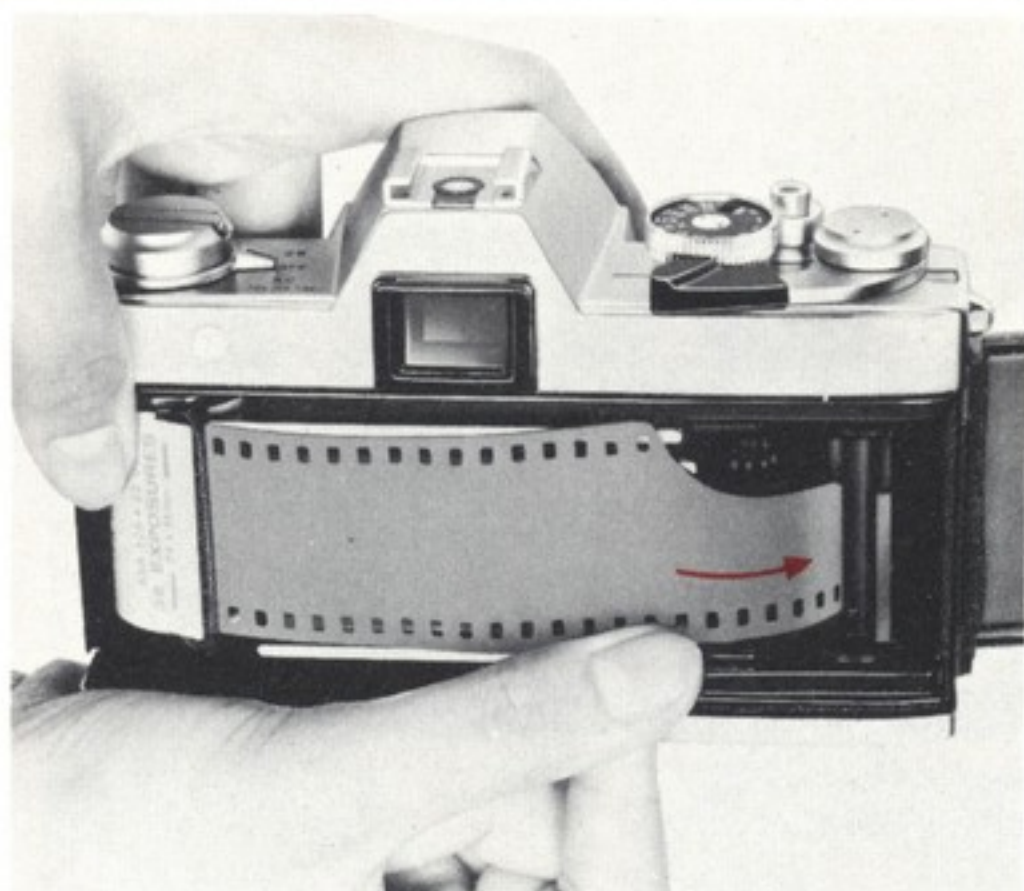
1 裏蓋をあけます。

フィルム巻戻しクランクを起し、巻戻しノブを引上げますと、一度止まります。ここで更に強く引上げますと、裏蓋が自動的に開きます。



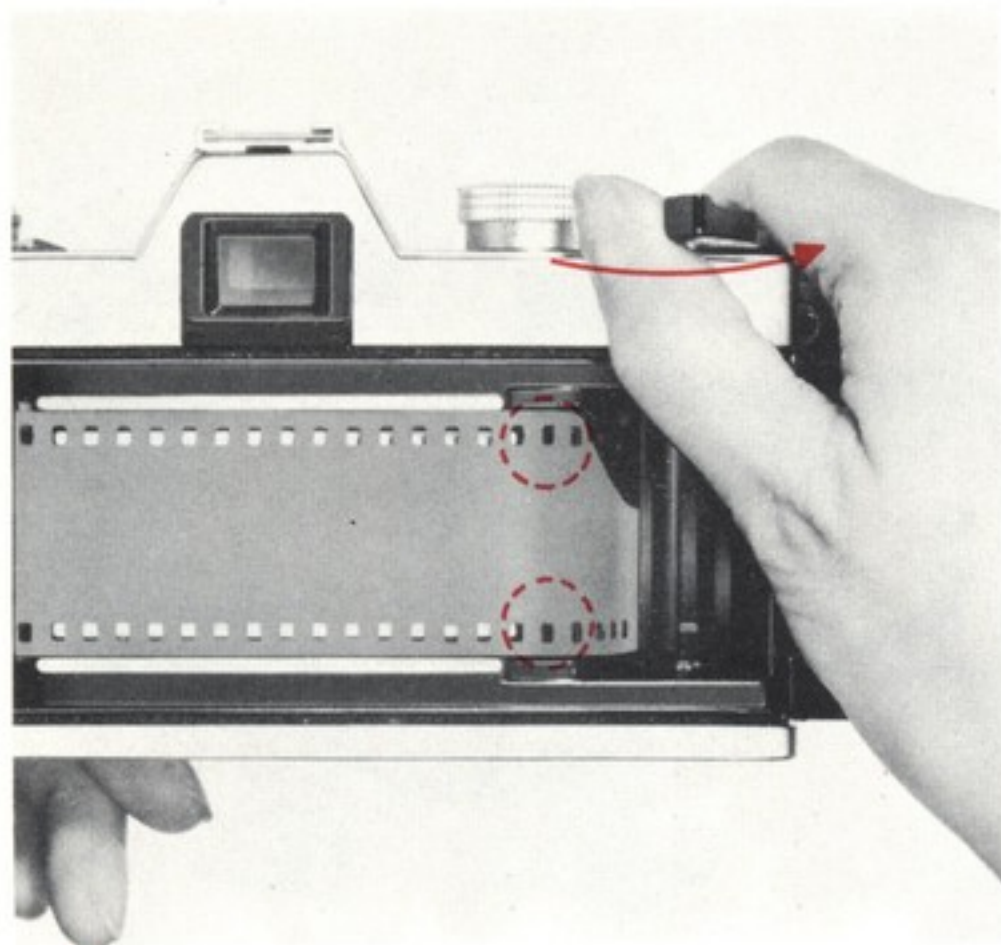
2 フィルムを入れます。

フィルムパトローネをパトローネ室に入れて、巻戻しノブを元の位置に戻します。戻らないときは、左右に少し回しながら押込みますと楽に入ります。



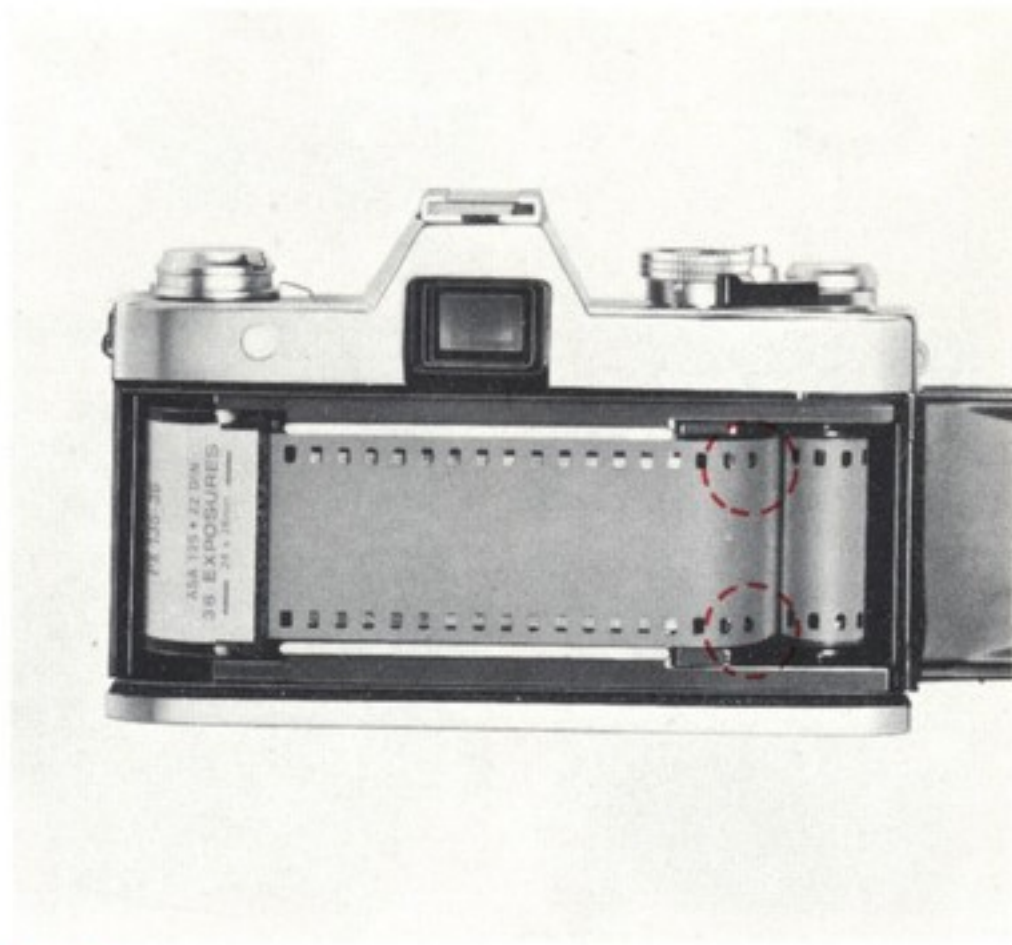
3 フィルムの先を差込みます。

右手でフィルムの先を持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。このときフィルムが傾かずガイドレールの間正しく納まるようにします。



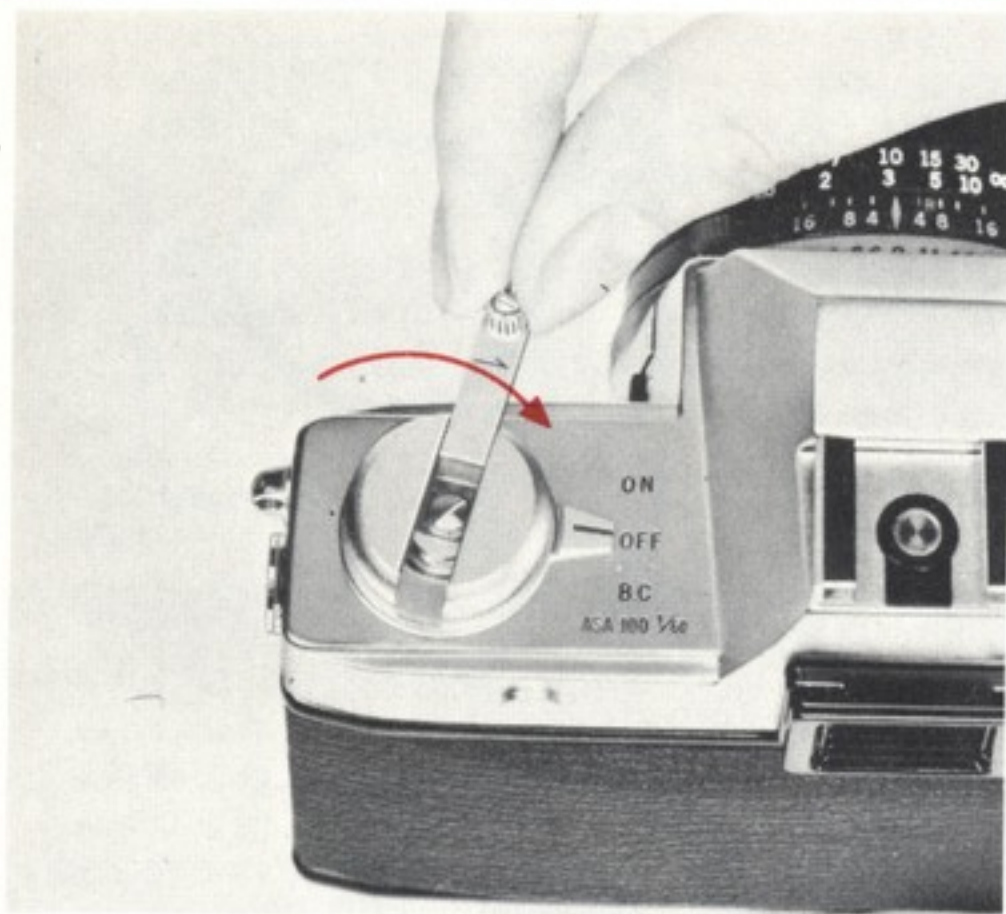
4 フィルムを巻上げます。

次に巻上レバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーション(穴)をスプロケットの歯車にかみ合わせ、確実に巻取ります。



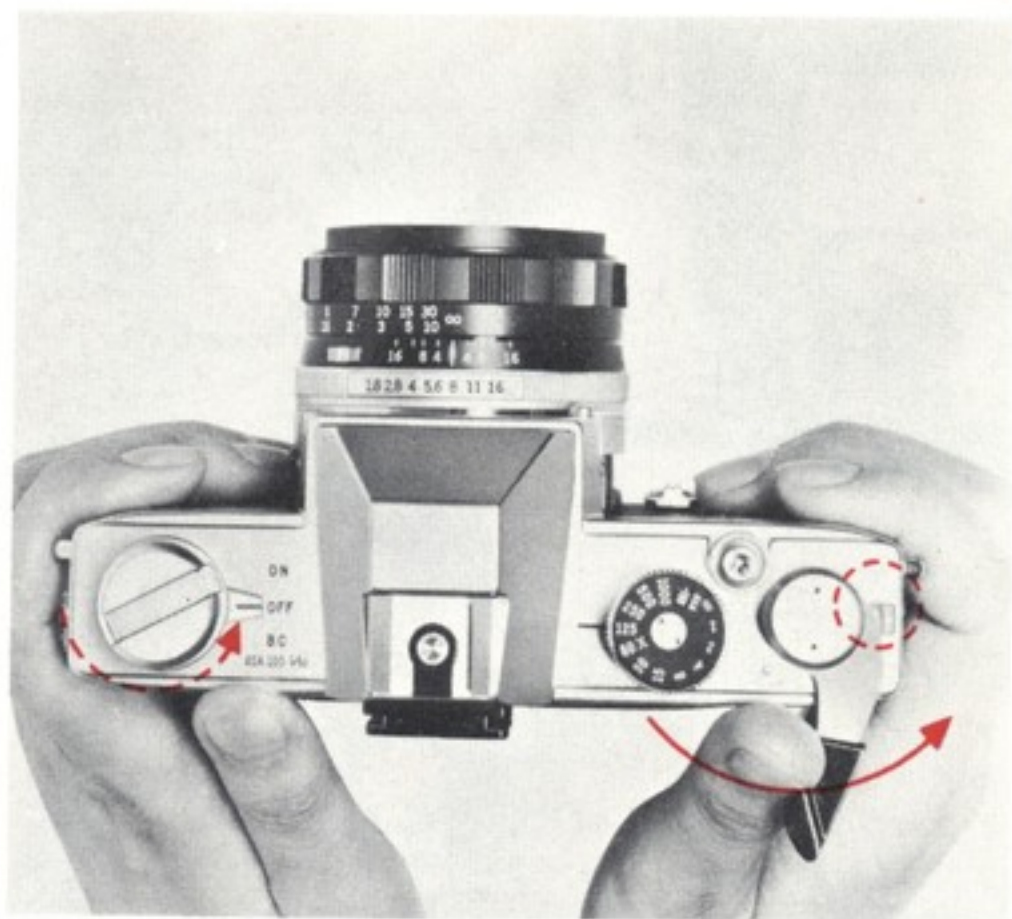
5 裏蓋を閉じます。

フィルムが外側のガイドレールの中に正しく入り、パーフォレーションがスプロケットの歯に両側共しっかりかかっていることを確認します。裏蓋を静かに押していくと、カチリと音がして閉じます。



6 フィルムのたるみをとります。

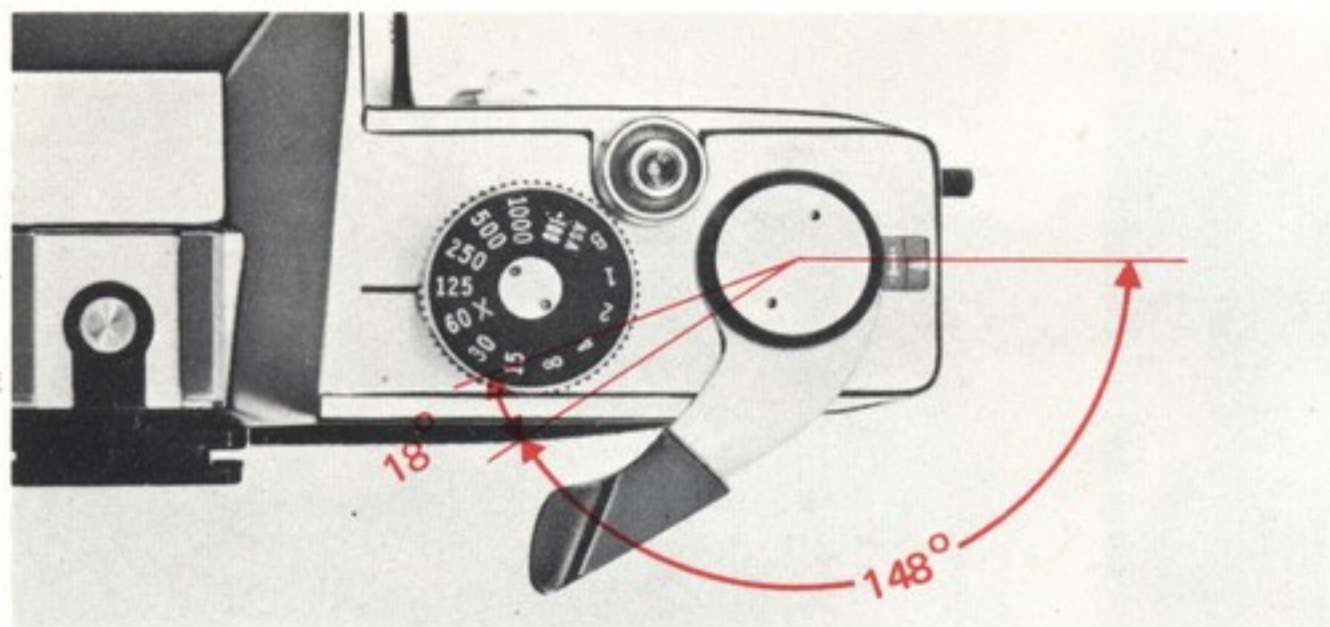
ここで巻戻しクランクを起し、ノブが重く感じるまで軽く矢印の方向に回して、フィルムのたるみをとっておきます。



7 フィルム駒数計を1にします。

フィルムを巻上げてレリーズボタンを押すこの空写し操作を2回行い、さらに1回巻上げますと、フィルム駒数計は1になります。ここから撮影に入れます。なお空写しの途中で巻戻しノブが巻上につれて回ります。これはフィルムが正しく送られている証拠です。

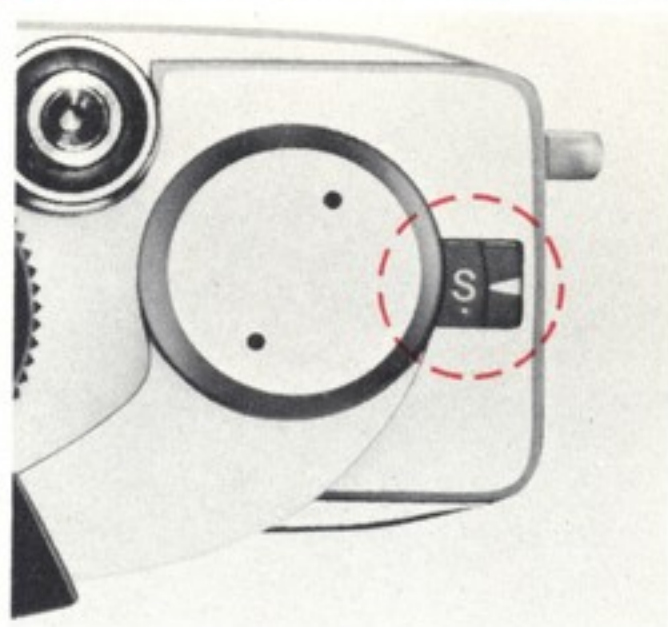
● フィルム巻上レバー



1. フィルム巻上レバーを軽く手前に引出します。(予備引出角 18°)すると、指をかけやすい状態となり、次の撮影のときの巻上が行えます。
2. ここから巻上レバーが止まるまで回すと、フィルムが1駒分巻上げられ、シャッターがセットされます。巻上角 148° 、この巻上操作は、小さざみに分けて巻上げすることもできます。
3. レリーズボタンを静かに押します。シャッターが切れて再び巻上ができます。

※巻上レバーの操作は、次のようなたくさんの仕事をしています。①フィルムが1駒分巻上げられ、②フィルム駒数計が1駒分進み、③シャッターがセットされ、④ミラーが作動開始状態になり、⑤自動絞り機構が準備され、⑥二重巻上や二重露出が防止されます。

● フィルム駒数計



フィルム駒数計には、S (スタート) から36までの数字がS・1・2・4・6と以下偶数で表示されています。このうちSとフィルムの撮影枚数にあたる12と20と36は赤字です。

フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動きオレンジ色の矢印◀の先に撮影枚数が示されます。

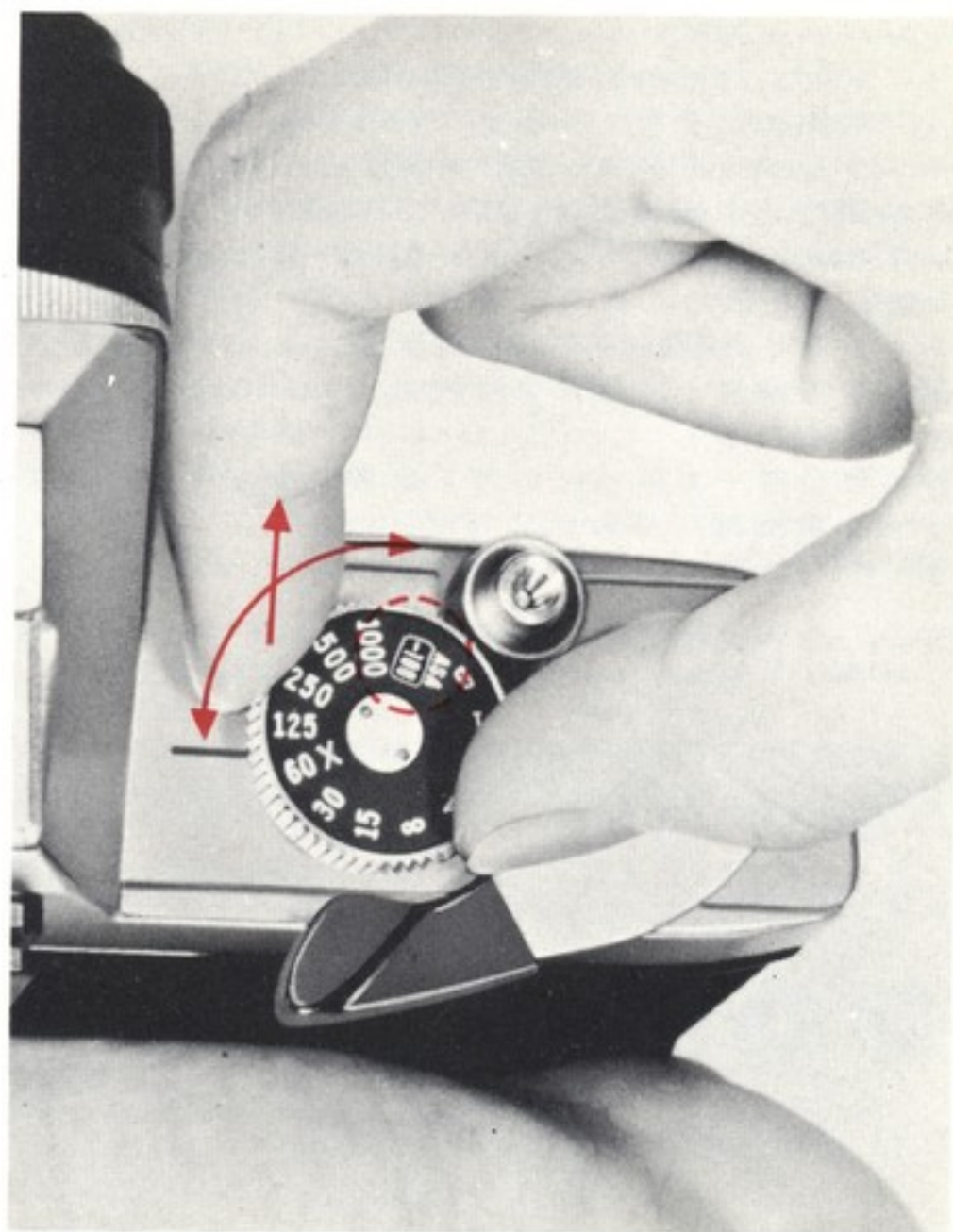
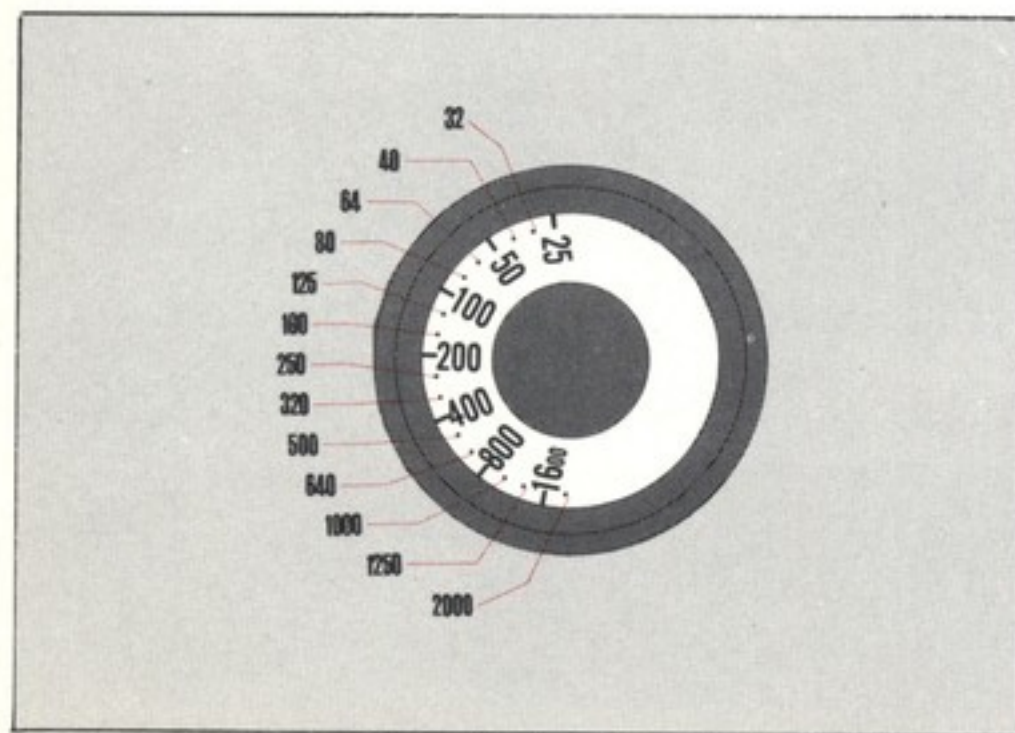
撮影が終わってフィルムを巻戻してから裏蓋をあけますと、フィルム駒数計は自動的にSに戻ります。

●フィルム感度セット窓

フィルム感度は、後述のシャッタースピードと絞りと共に露出決定の3要素です。フィルムの箱に記載された数値（ASAまたはDINでの感度表示）を間違わずにセットすることが、正しい露出を得るための基本的な条件になります。

フィルム感度セット窓は、シャッターダイヤルのBと1000の間にあります。シャッターダイヤルのリングをつまみ引上げて左または右に回し、この小窓の中央に使用するフィルム感度ができるようにセットしてください。

※ASAは国産およびアメリカ系、DINはドイツ系のフィルム感度規格です。



●シャッターダイヤル

シャッターダイヤルには、B、1、2、4、8、15……1000と12段階の数字が刻まれています。Bはバルブ露出のことで、レリーズボタンを押している間中シャッターが開き、放すと閉じます。1秒以上の長時間露出の場合に使います。1は1秒、2は $\frac{1}{2}$ 秒以下1000は $\frac{1}{1000}$ 秒のシャッタースピードを表わしています。

シャッタースピードの働きは、フィルムの露光量を調節する働きと、被写体の動きを止める働きをもっています。

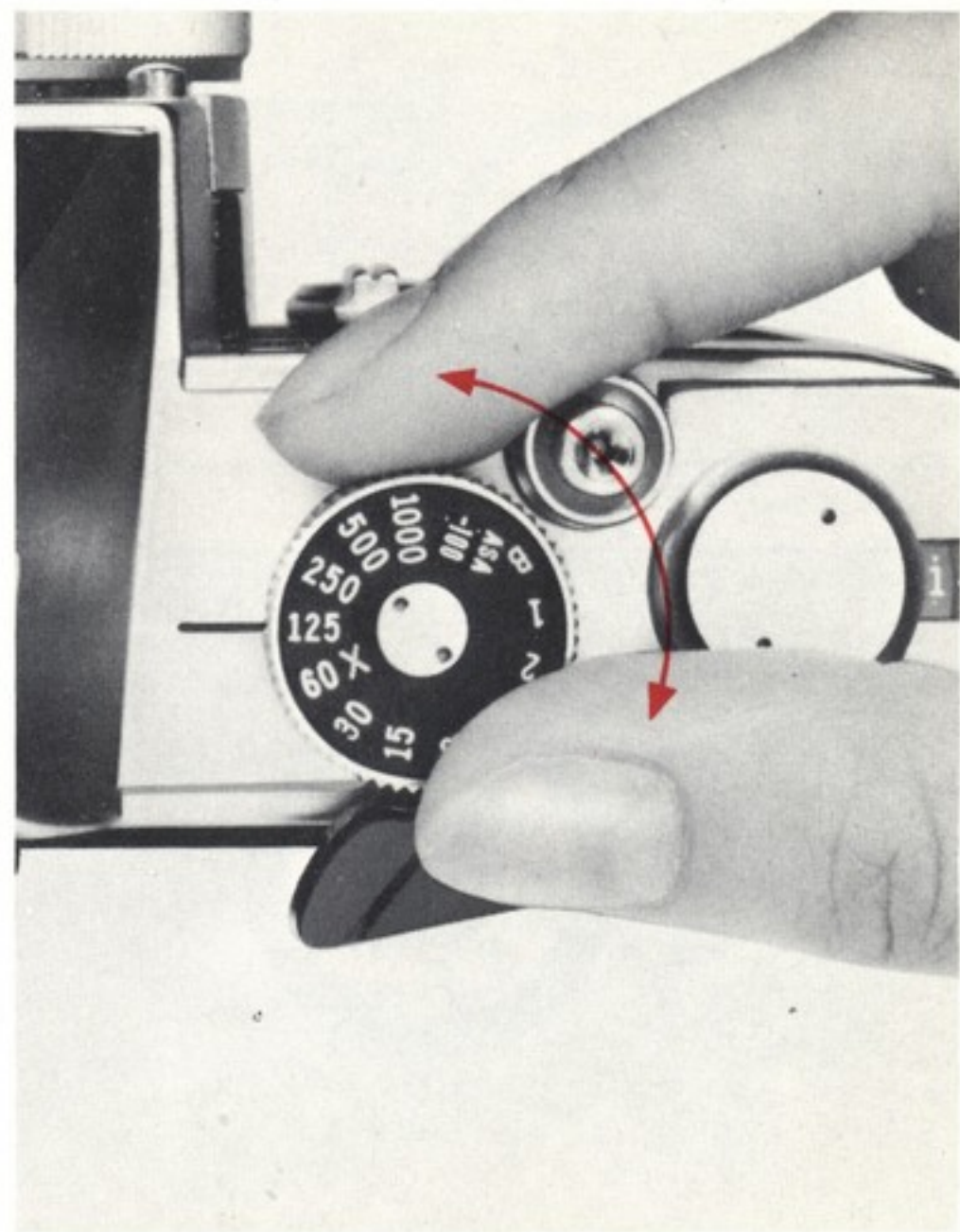
被写体条件や目的に応じて、必要なシャッタースピードを黒指標に合わせてください。

※シャッターダイヤルは、TTL露出計の指針(—)と連動しています。

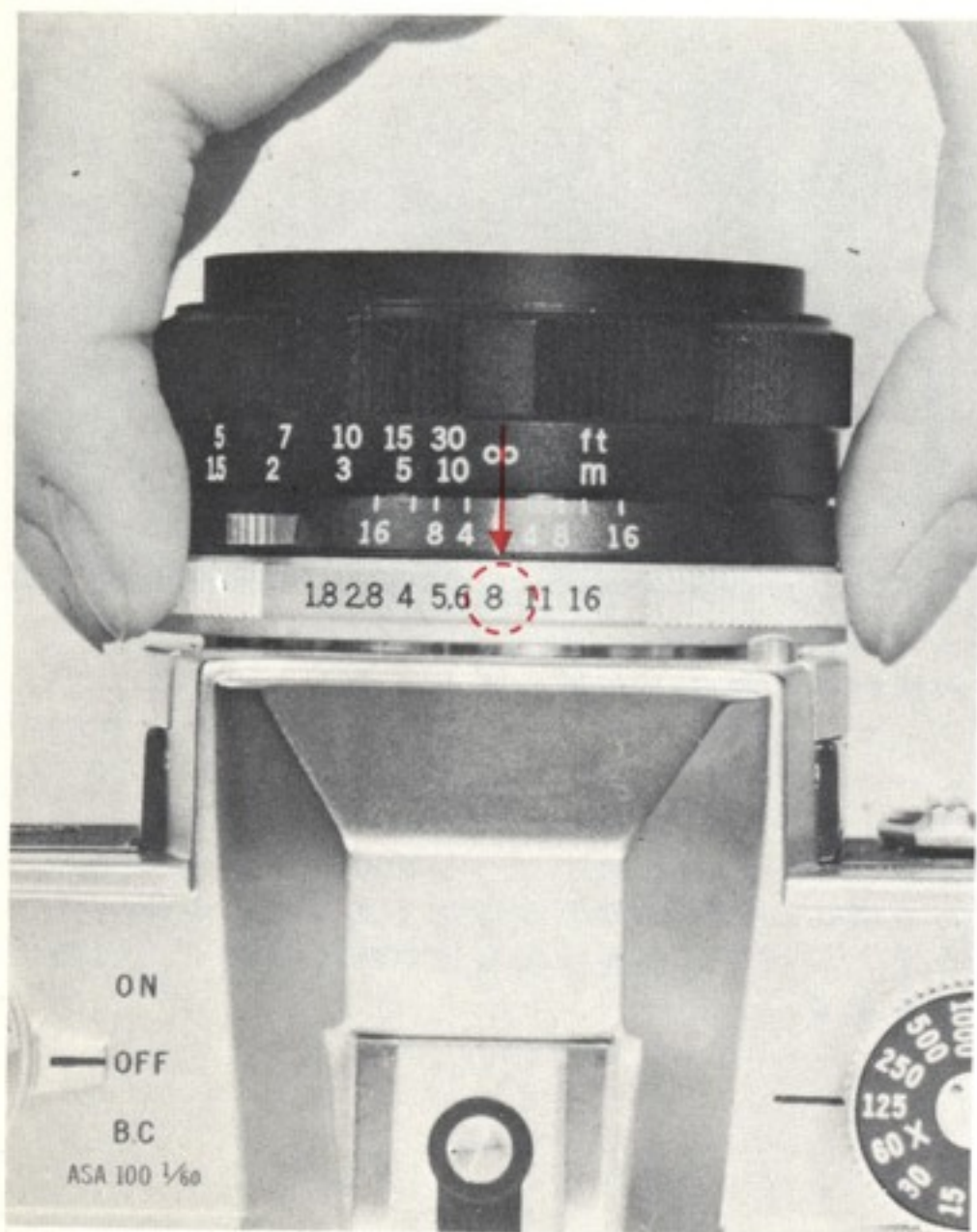
※シャッタースピードは、必ず黒指標でカチリと止まった状態でお使いください。数字と数字の間スピードは使えません。またBと1000の間は移動しませんのでご注意ください。

※ $\frac{1}{60}$ 秒以下のシャッタースピードで撮影の場合は、なるべく三脚などで、しっかり固定してシャッターブレのないようにして撮影してください。

※シャッタースピードのセットは、フィルム巻上の前後いずれでも構いません。



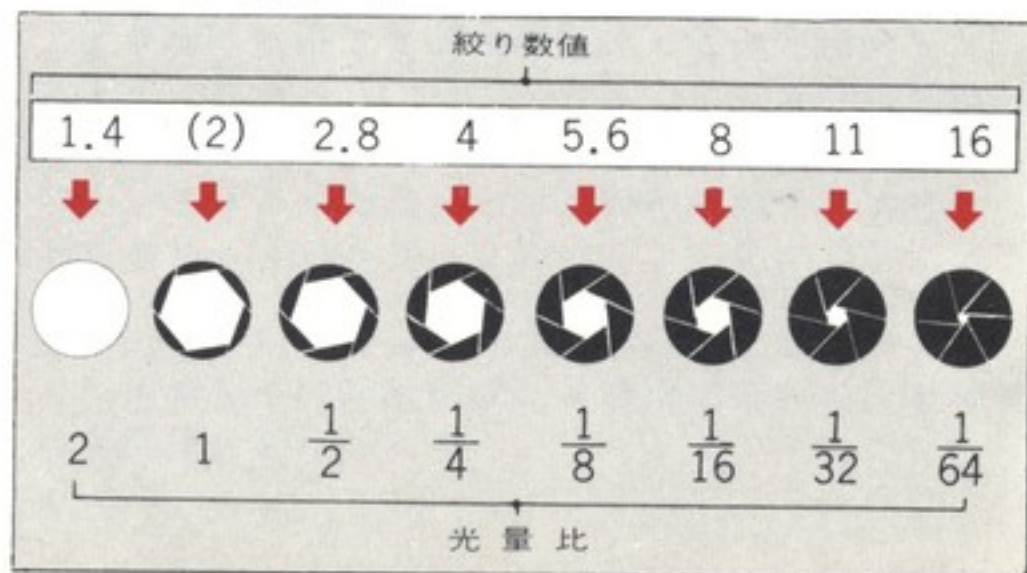
● 絞り環



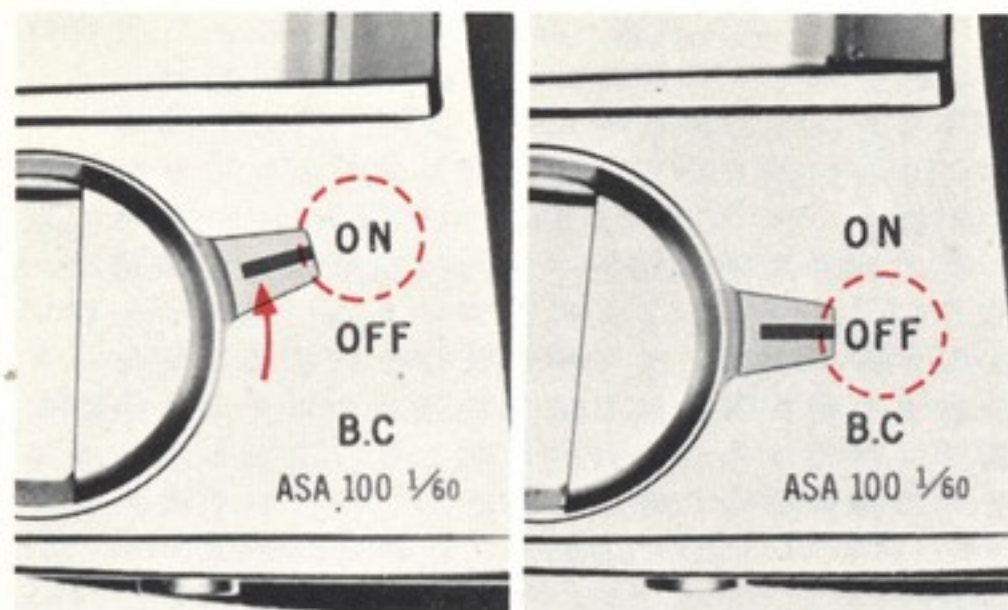
F1.8標準レンズの絞り環には、1.8、2.8、4、5.6、8、11、16と7段階の数字が刻まれています。絞りはレンズ鏡筒の中にある6枚の羽根の働きで、フィルムに達する光量を調節します。絞りが開いた状態がF1.8の開放で、最も絞り込まれたときがF16です。絞り数値が大きくなればなるほど、撮影時の絞りの径面積が小さくなりフィルムに達する光量が少なくなります。また絞りは絞れば絞るほどピントの合う奥行きが深くなる性質を持っています。(27頁参照) 被写体条件や目的に応じて、必要な絞り数値を赤指標◆に合わせてください。

※絞り環は、TTL露出計の追針(○—)と連動しています。
 ※絞り数値は、シャッタースピードと違って中間の目盛が使えます。

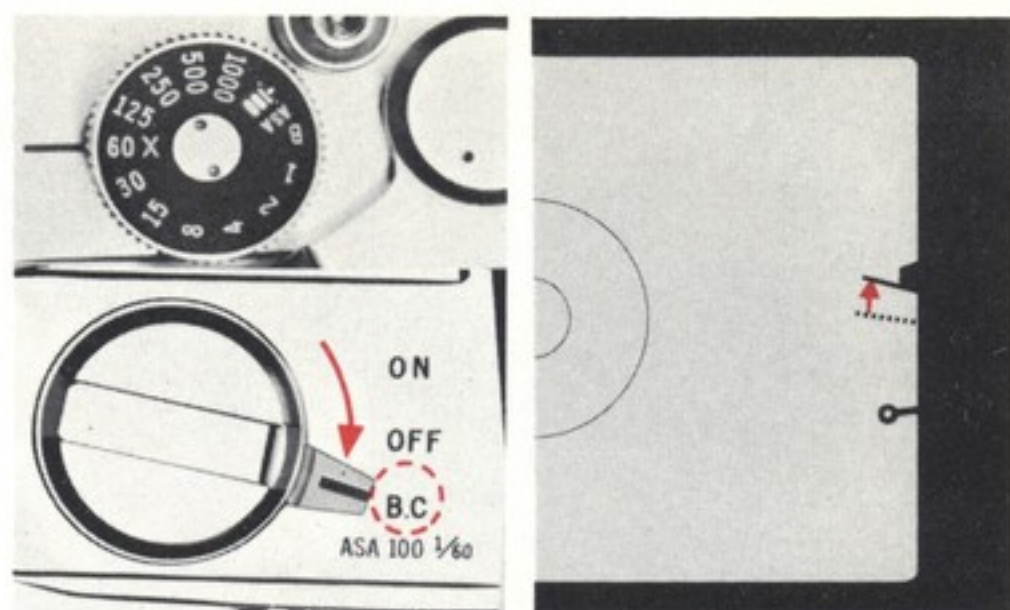
※オリンパスFTLの交換レンズ群は、完全自動絞りでシャッターが切れる瞬間だけあらかじめセットした絞りまで絞られ、あとは常に開放です。



●露出計スイッチレバー



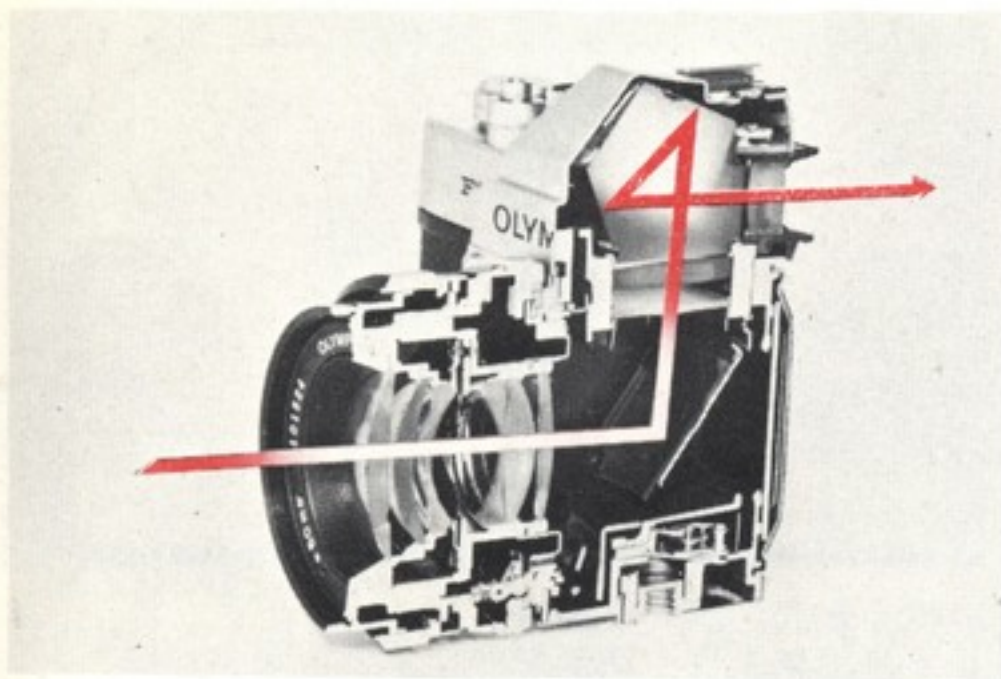
露出を決めるときは、1) 露出計スイッチレバーをONにしてください。メーターに電流が流れ、ファインダー内の指針が動きます。シャッターダイヤルを回すと指針が動き、絞り環を回すと追針が動きます。撮影しないときは、2) レバーをOFFに戻してください。水銀電池の消耗が防げます。



〈バッテリーチェック〉

水銀電池の寿命の有無をチェックする方法は、まずフィルム感度をASA 100にしてから、シャッタースピードを $\frac{1}{60}$ 秒にセットして、3) レバーをB.C (Battery Checkの略) に合わせます。そのときファインダー内の指針が、バッテリーチェックゾーンまで振れれば電池電圧が正常であることを示しています。レバーは指をはなせば自動的にOFFの位置に戻ります。

● TTL露出計

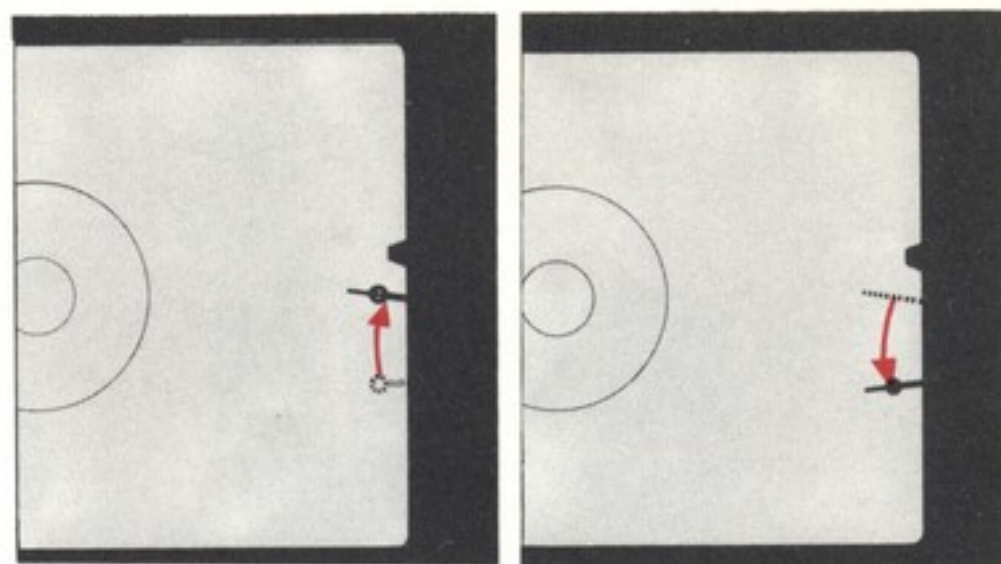
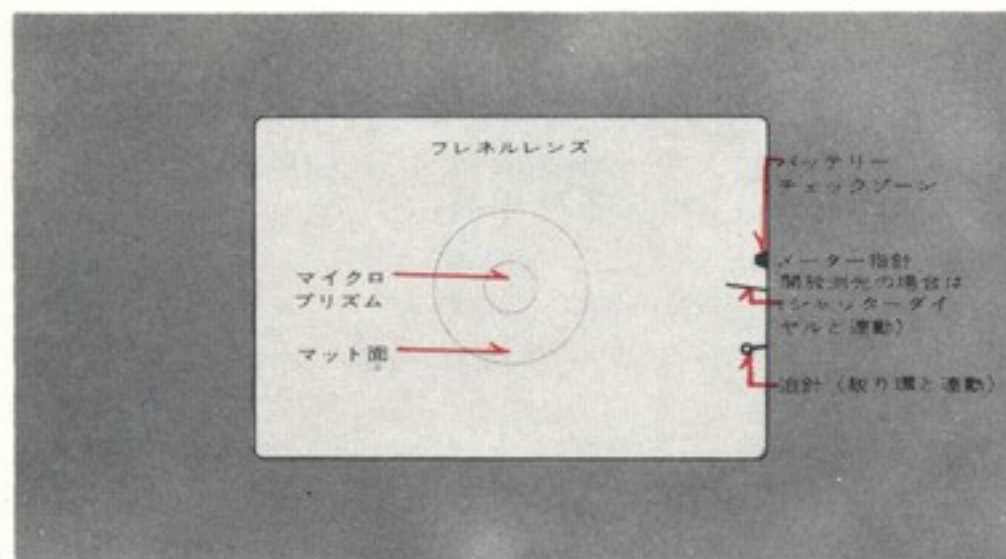


オリンパスFTLは、撮影レンズを通してフィルム面に達する光の明るさを測光するTTL方式です。(TTLはThrough-The-Lensの略) 大きな特徴は、定位置ロック装置付ブラクチカマウント採用のため、使い易い開放測光ができることです。従来このマウントの一眼レフは、ねじ込み位置の不揃いという宿命的な欠点で開放測光が不可能でした。それが定位置ロック装置の発明により解決されました。ブラクチカマウントのピンにより、レンズは定位置に装着され同時に絞り環の連動ピンとカメラの連動爪が結合します。

測光方法は、簡単で容易な追針式で、それには2つの方式があります。専用交換レンズを使用する場合は、レンズが開放のまま常に明るいファインダーを見ながら測光できる開放測光で行います。中間リングやベローズを併用する場合や他社レンズを使用する場合には、実際に写す状態まで絞り込んで測光する絞り込み測光で行ないます。

TTLの構造は図のように、受光部として2個の高感度CdSが接眼部の両側に置かれ、ペンタプリズムを経由してきた光量のうちの画面中央部の平均的明るさを測定しています。そのため、広角や望遠レンズを使っても、ベローズなどを使い超接写をしても、露出倍数がかかるフィルターを使っても、TTLメーターの針がその微妙な変化を適確にとらえ、正確無比な露出が得られます。

●露出の決めかた



〈開放測光〉

1) シャッタースピードを先に決める場合
最も標準的で一番使う方法です。まず被写体条件や撮影目的によって適当なシャッタースピードを決めます。一般に室内や暗い被写体は、 $\frac{1}{30}$ 秒か $\frac{1}{60}$ 秒、屋外や明るい被写体は、 $\frac{1}{125}$ 秒か $\frac{1}{250}$ 秒が適当です。次にファインダーをのぞきながら絞り環を回して、メーターの指針に追針を合わせます。追針が合わない場合は、セットしたシャッタースピードが不適当ですので、もう一度セットし直してから測光してください。

2) 絞りを先に決める場合

まず被写体条件や撮影目的によって適当な絞りを決めます。一般に室内や暗い被写体は、開放値に近い絞り値、屋外や明るい被写体は、11か16が適当です。次にファインダーをのぞきながらシャッターダイヤルを回して、メーターの追針に指針が大体合うようなスピードにします。このときシャッタースピードは中間目盛にならないようにセットし、その状態で絞り環を回して指針に追針をしっかりと合わせてください。撮影に適当かどうかを確認することが大切です。このときシャッタースピードはBを使わないようにしてください。またシャッターダイヤルが、Bまたは $\frac{1}{1000}$ 秒のスピードになっても追針と指針が合わないときは、セットした絞り値が不適当ですので、もう一度セットし直してから測光してください。

ASA	B	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000
25												
50												
100												
200												
400												
800												
1600												

運動範囲

〈露出計運動範囲〉

露出を決めるとき遅いシャッタースピードを使うとファインダーの右下に赤い移動ゾーンがでます。メーターの指針がこのゾーンに入ってしまう場合は、被写体の明るさが露出計の測光範囲外であることを示しています。指針がこのゾーンに入らないようにシャッタースピードをセットし直してから測光してください。運動範囲はフィルム感度によって違いますので上図をご参照ください。

〈絞り込み測光〉

エクステンションチューブセットやベローズなどを使う場合や絞り連動機構のない交換レンズ（他社レンズや超望遠レンズなど）を使う場合は、絞り連動機構がはずれますので絞り込み測光で露出を決めます。まずプレビューボタンを押し絞りが絞られた状態にします。次にファインダーをのぞきながら絞り環およびシャッターダイヤルを回して、追針（この場合追針は動きません。メーター指針の方が動きます）に指針が合うようにすれば適正露出になります。

- ※絞り環を回すと指針が動くのは、TTLのため実際絞られるに従ってCdS受光部へ達する光量が減少していくからです。
- ※開放測光できる専用交換レンズは、絞り込み測光はできません。従ってこのレンズでプレビューボタンが押込まれた状態で合わせてはいけません。
- ※絞り込み測光のときは、接眼部から強い光が入りこまないように、眼をしっかりとつけるか、アイカップを使うことをおすすめします。

●特殊な露出のテクニック

〈1. 逆光撮影の場合〉

いつも太陽を背にして順光線で撮影すればよいのですが、表現上や場所の関係で逆光で撮影する場合があります。そのときは次の要領で露出を決めます。まずレンズの画角外から入る強い光線をカットするために、できるだけレンズフードを装着してください。次にできるだけバックの明るい部分をさけ撮影位置より被写体まで近寄って測光し、カメラを元の撮影位置に戻して撮るようにしてください。





《2.バックや周囲が極端に明るい場合、暗い場所》
明るい空をバックにした人物や、周囲が極端に明るい場所（晴天の海辺や雪の中など）での人物撮影では、露出計はそうしたバックの明るさに影響されて大きく振れるため、目的の人物に対しては露出不足気味になります。これと反対にバックの暗い中に人物だけが明るい光を受けている場合などは、逆に露出過度になる恐れがあります。

このような露出の過不足を防ぐには、近寄って人物をファインダー視野いっぱいに入れ、周囲の影響を受けないように測光し、元の位置に戻って撮影すると良い結果が得られるでしょう。

《3.画面の中に強い光源がある場合》

例えば、画面内に裸の蛍光灯とか電球、あるいは室内から空の見える窓の開口部が写り込む場合などです。なるべくこうした条件は避けた方がよいのですが、やむを得ないときは一旦カメラの向きを少し変えて、光源の部分をファインダー視野からはずして測光し露出をセットしてから、カメラを元の向きに戻しシャッターを切るようにします。

以上のほかにカメラの横や後方に非常に強い光源があるときは、カメラ背面の接眼部から光線が逆入射して露出測光に影響することもありますから、ライトを使う撮影などではなるべくアイカップを装着してください。



●ピントの合わせかた



ファインダーをのぞきながら距離環を右か左に回しますと、写そうとするものがはっきりしてきます。特に中央のマイクロプリズムの像が最も鮮鋭になったところでシャッターを切れば、ピントのいい写真が写せます。

※被写体までの距離が知りたいときは、赤指標◆と合致した数字を読みとります。白色がm(メートル)目盛、オレンジ色がft(フィート)目盛で表示されています。

※標準レンズのまま40cmまで近づくのが大きな特色です。そのときの写せる範囲は、14.1cm×21.1cmです。

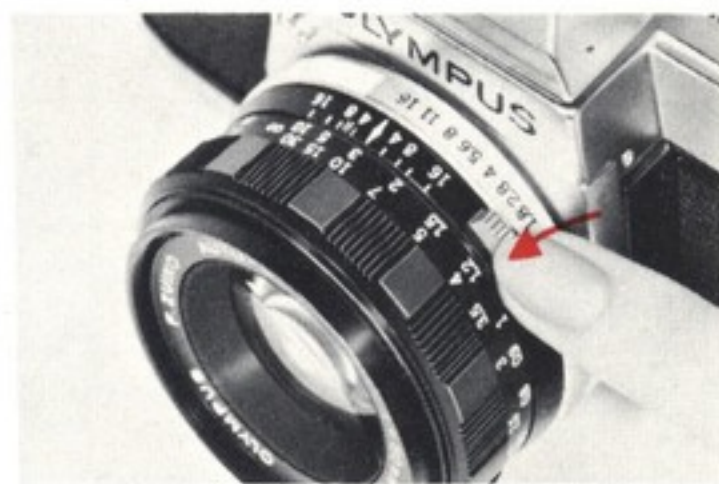
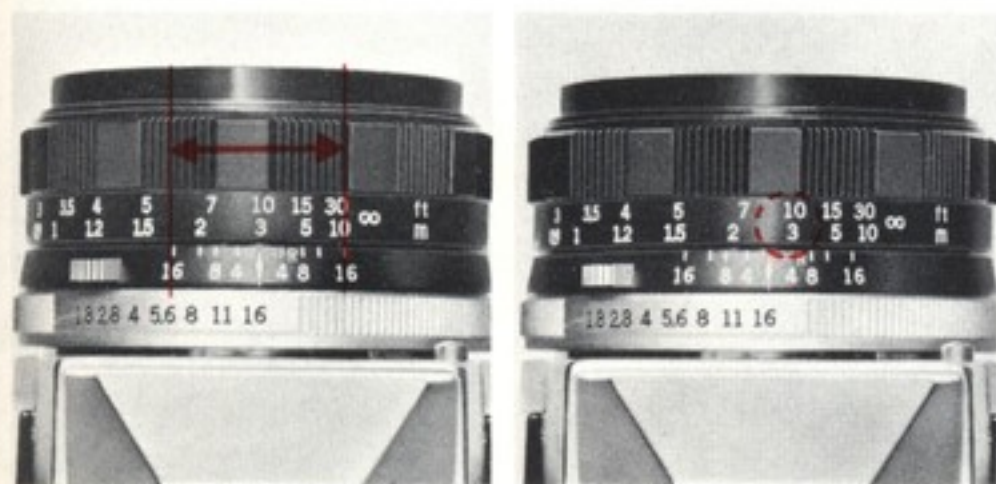


〈深度目盛と赤外線指標〉

マウント環の赤指標◆の左右対称に、4、8、16の数字と線が刻まれています。左右対称の数字の間にある距離目盛が、ピントの合う範囲を示しています。例えば写真のように距離3mで絞り16に合わせてあったとしますと、1.8m位から10m位までのものはすべて鮮鋭な画像となることがわかるわけです。(次頁の被写界深度の項参照) スナップ撮影のときなどは、いちいちピントを合わせなくてすみ便利です。特殊撮影で赤外線フィルムを使うときは、一般撮影よりピントが多少ずれます。一度ピントを合わせてから、その距離目盛を赤外指標(4と一致)までずらしてから撮影してください。この場合は、必ず赤外用フィルターを使用してください。また露出も赤外フィルムの使用法に従ってください。

〈レビューボタン〉

ファインダー内でピントの合う範囲を直接確かめたい場合があります。そのときはレビューボタンを押して、更に下側に寄せてロックさせますと、セットした絞りまで絞られてピントの合う範囲やバックのボケ具合が確認できます。戻すときは、逆の方に寄せるとロックがはずれ元の位置に戻って絞りが開放になります。

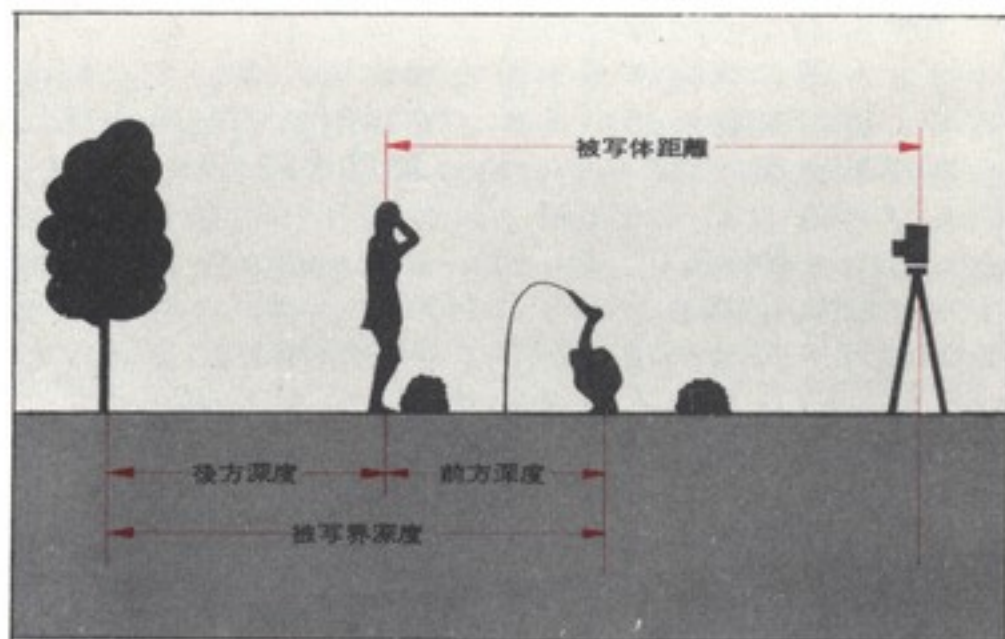


●被写界深度

ある距離にピントを合わせたとき、その距離にあるものが一番はっきり写るのが当然です。しかしレンズの一般的性質として、その前後にもはっきり写る範囲があります。これを被写界深度とよび、この範囲が広いことを深度が深いといいます。前方深度(手前)は後方深度より浅くなります。

深度は、絞りが絞られれば絞られるほど、レンズの焦点距離が短かければ短かいほど深くなります。この性質を作画の上に生かしてください。実際の絞り効果はプレビューボタンを押せばファインダー内でわかります。

右の被写界深度表のみかたは、例えば距離3 m 絞り16のとき 1.92 m から7.02 m までピントが合うことを示しています。



● 被写界深度表 (F1.8/F1.4標準レンズの場合)

許容ボケの直径 1/30mm

距離 (m) 絞り	∞	10	5	3	2	1.5	1.2	1	0.9	0.8	0.7	0.6	0.55	0.5	0.45	0.4
1.4	57.28 ~∞	8.54~ 12.07	4.61~ 5.46	2.86~ 3.16	1.94~ 2.07	1.47~ 1.54	1.18~ 1.22	0.99~ 1.02	0.89~ 0.91	0.79~ 0.81	0.69~ 0.71	0.60~ 0.61	0.55~ 0.55	0.50~ 0.50	0.45~ 0.45	0.40~ 0.40
1.8	44.64 ~∞	8.20~ 12.83	4.51~ 5.61	2.82~ 3.21	1.92~ 2.09	1.46~ 1.55	1.17~ 1.23	0.98~ 1.02	0.89~ 0.92	0.79~ 0.81	0.69~ 0.71	0.59~ 0.61	0.55~ 0.56	0.50~ 0.50	0.45~ 0.45	0.40~ 0.40
2	40.20 ~∞	8.04~ 13.24	4.46~ 5.69	2.80~ 3.23	1.91~ 2.10	1.45~ 1.55	1.17~ 1.23	0.98~ 1.02	0.88~ 0.92	0.79~ 0.81	0.69~ 0.71	0.59~ 0.61	0.54~ 0.56	0.50~ 0.50	0.45~ 0.45	0.40~ 0.40
2.8	28.76 ~∞	7.45~ 15.22	4.28~ 6.02	2.73~ 3.33	1.88~ 2.14	1.43~ 1.57	1.16~ 1.25	0.97~ 1.03	0.88~ 0.92	0.78~ 0.82	0.69~ 0.71	0.59~ 0.61	0.54~ 0.56	0.49~ 0.51	0.45~ 0.46	0.40~ 0.40
4	20.16 ~∞	6.72~ 19.61	4.03~ 6.59	2.63~ 3.50	1.83~ 2.20	1.41~ 1.61	1.14~ 1.27	0.96~ 1.04	0.87~ 0.94	0.78~ 0.83	0.68~ 0.72	0.59~ 0.61	0.54~ 0.56	0.49~ 0.51	0.44~ 0.46	0.40~ 0.41
5.6	14.42 ~∞	5.94~ 31.93	3.74~ 7.56	2.50~ 3.75	1.77~ 2.30	1.37~ 1.66	1.12~ 1.30	0.94~ 1.06	0.86~ 0.95	0.77~ 0.84	0.67~ 0.73	0.58~ 0.62	0.54~ 0.57	0.49~ 0.51	0.44~ 0.46	0.39~ 0.41
8	10.11 ~∞	5.07~ ∞	3.38~ 9.70	2.34~ 4.20	1.69~ 2.45	1.32~ 1.74	1.09~ 1.34	0.92~ 1.09	0.84~ 0.97	0.75~ 0.86	0.66~ 0.74	0.57~ 0.63	0.53~ 0.57	0.48~ 0.52	0.44~ 0.46	0.39~ 0.41
11	7.37 ~∞	4.28~ ∞	3.01~ 15.01	2.16~ 4.94	1.60~ 2.69	1.27~ 1.84	1.05~ 1.40	0.90~ 1.13	0.82~ 1.00	0.74~ 0.88	0.65~ 0.76	0.57~ 0.64	0.52~ 0.58	0.48~ 0.53	0.43~ 0.47	0.39~ 0.41
16	5.08 ~∞	3.40~ ∞	2.56~ ∞	1.92~ 7.02	1.47~ 3.19	1.18~ 2.06	0.99~ 1.52	0.86~ 1.21	0.78~ 1.06	0.71~ 0.92	0.63~ 0.79	0.55~ 0.66	0.51~ 0.60	0.47~ 0.54	0.43~ 0.48	0.38~ 0.42

● カメラの構えかた



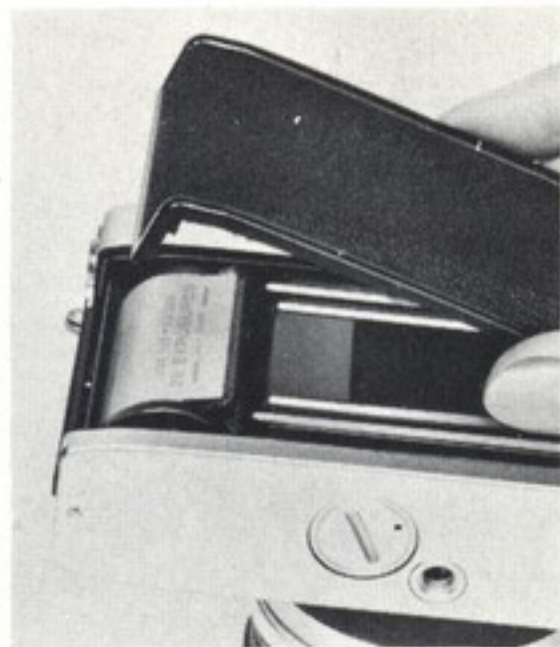
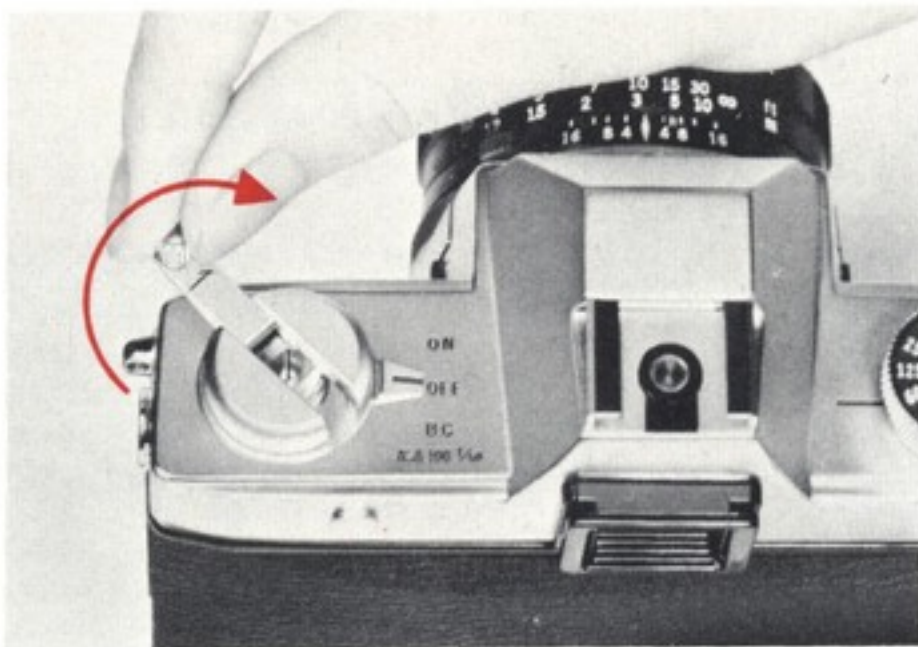
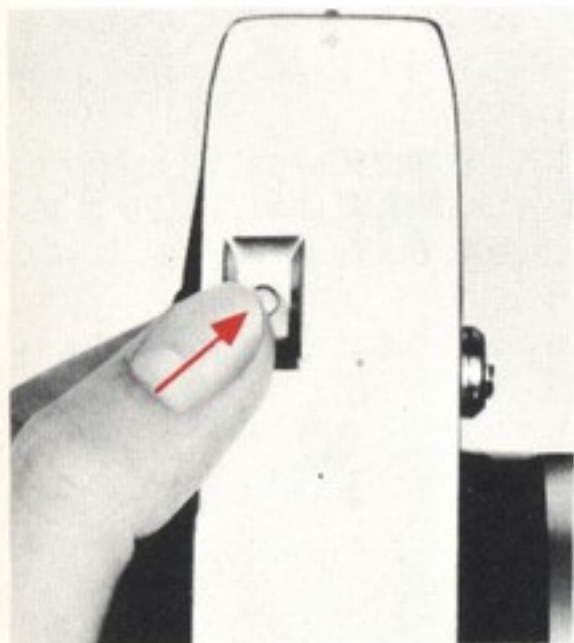
美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまでは、フィルムを入れないで何回も練習してみてください。

リリースボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押します。シャッターを切るときは、一瞬息を止めるようにするのがコツです。

構えかたは、構図によってタテ位置でもヨコ位置でも自由です。自分のからだに合った安定した構えかたを身につけましょう。

- ヨコ位置に構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置に構えるときは、右腕をからだにしっかりつけて、左手とひたいの部分でカメラが動かないように保持します。

● フィルムの巻戻しかた



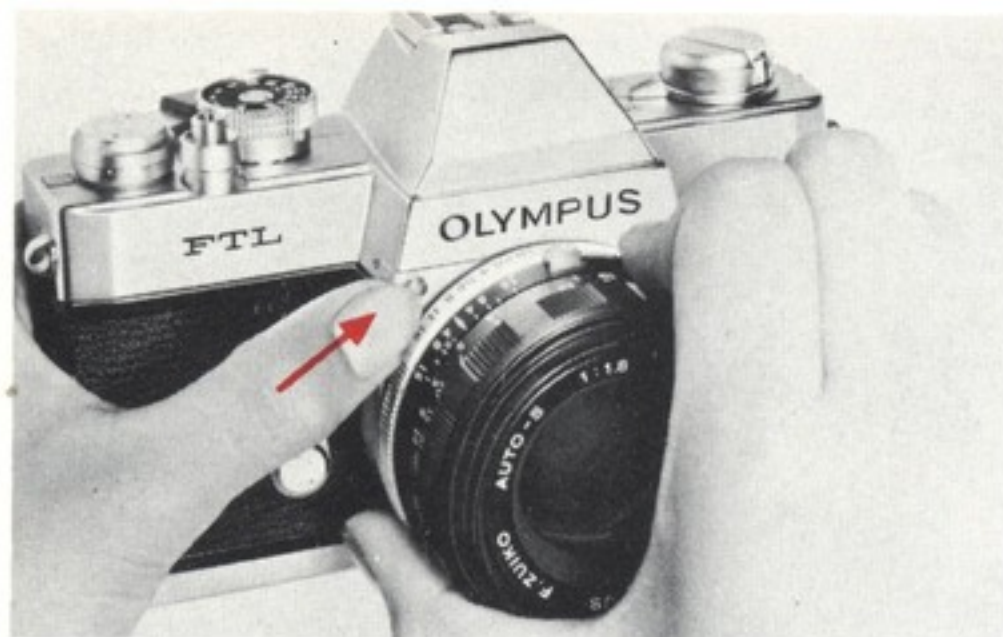
撮影が終わったらフィルムを巻戻します。撮影し終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚撮りフィルム）か20（20枚撮り）または36（36枚撮り）になったことでわかります。

1. まずカメラ底部にある巻戻しボタンを押込みます。一旦ひっこんだボタンはそのままロックされています。
2. 次に巻戻しクランクを起こして、クランクの矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じられますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。

3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけてフィルムパトローネを取出してください。ひっこんだ巻戻しボタンは、1回以上の巻上操作で元の位置に戻ります。

※なおフィルムが終りになって、巻上レバーが途中で動かなくなることがあります。そのときはフィルムが終っていますので、無理に巻上げず、撮影を中止してフィルムを巻戻してください。

● レンズ交換のしかた



レンズ交換はスクリュー式で、レンズ着脱ボタンを押しながら、レンズを左（反時計方向）へ約3½回転させれば完全にはずれます。

取付けるときは、逆に右（時計方向）に回しロックピンによって完全に止まるまで確実にねじ込みます。そのときマウント環の赤指標◆が、上から見てちょうど中央にくるはずです。

※レンズを取りはずして使用しないときは、自動絞りピンを保護するために、必ず専用バックキャップを装着してください。裸のまま一時的に机の上などに置くときは、逆にしてレンズが下側にくるようにしてください。

※レンズ交換には、35ミリ一眼レフの中で一番普及しているブラクチカマウントを採用してありますので、他社のブラクチカマウント系交換レンズやアクセサリも使用できます。



●FTL用ズイコー交換レンズ

■オリンパスFTL専用交換レンズ

●広角／ズイコー 28mm F 3.5 ￥21,000

ズイコー 35mm F 2.8 ￥18,000

ケース各￥800

●望遠／ズイコー135mm F 3.5 ￥15,000

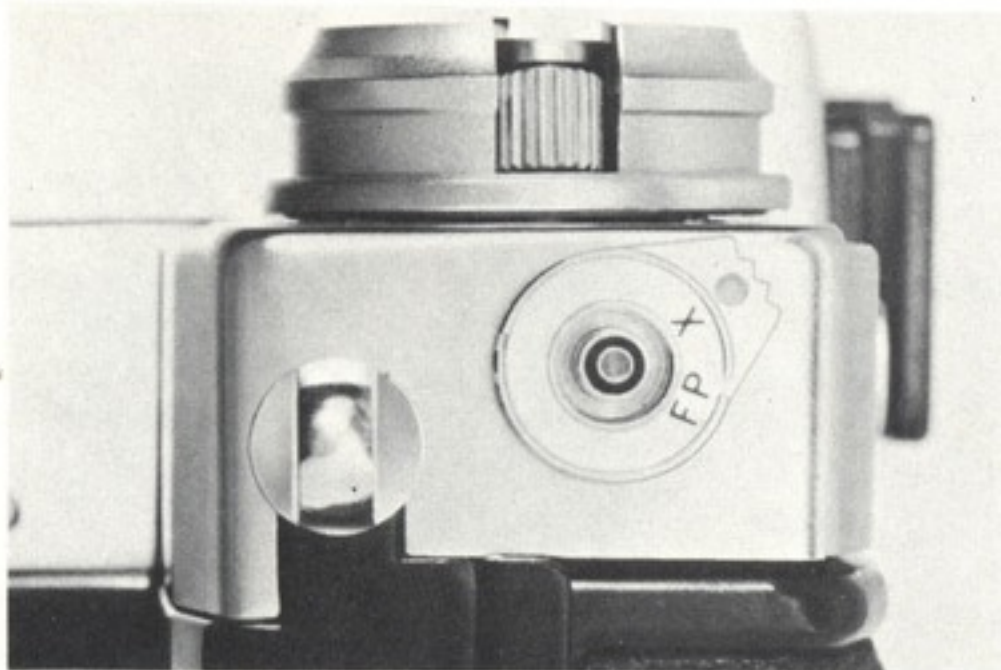
ケース￥1,200

ズイコー200mm F 4 ￥24,000

ケース￥1,500



●フラッシュ撮影のしかた



室内や暗いところでの撮影や、また日中でも補助光のほしい撮影には、スピードライト(ストロボ)やフラッシュバルブを使ってフラッシュ撮影をしてください。アクセサリシューがコードレス接点付ですので、小型フラッシュ装置・オリンパスPS100G、フラッシュCLがコードなしで直接使え便利です。

1. シンクロ接点を決めます。

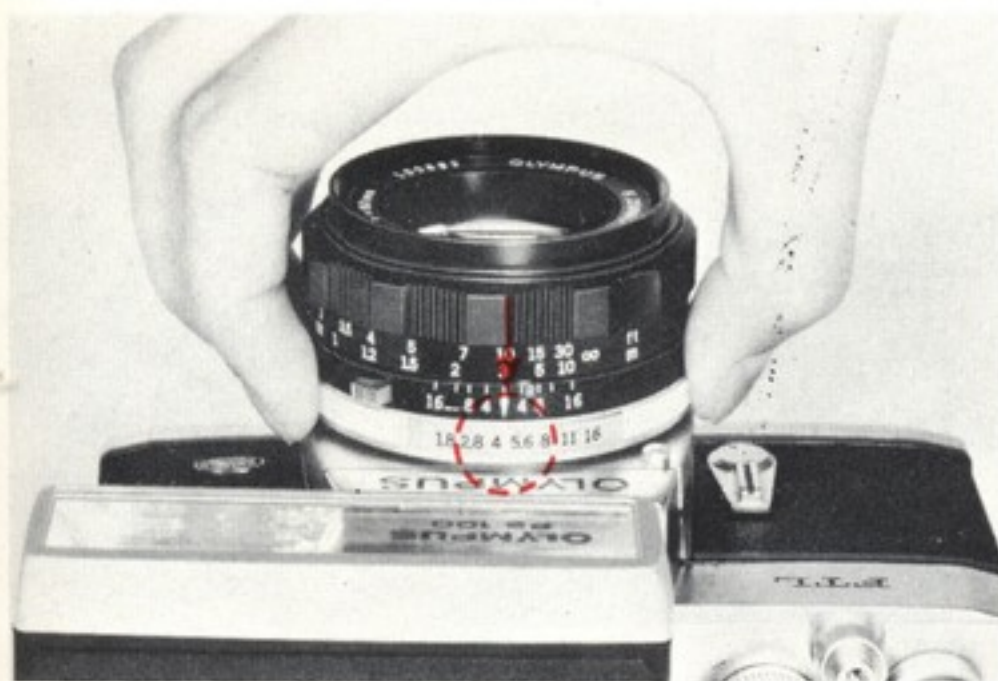
ボディ側面のシンクロソケットには、FP・X接点切替レバーが付いています。レバーを爪で動かし、FP級バルブを使うときはFP、スピードライト(ストロボ)やM級およびMF級バルブを使うときはXに合わせてください。



2. フラッシュ装置を取付けます。

カメラ上部のアクセサリシューにフラッシュ装置の取付足を差し込みしっかりと固定します。次に接続プラグをシンクロソケットに差し込んでください。

ただしオリンパスPS100Gのようにダイレクトコンタクト付のフラッシュ装置は、アクセサリシューに差し込むだけで電氣的接続は完了しています。



3. 露出を決めます。

シャッタースピードは、FP級バルブは全速、スピードライトは $\frac{1}{60}$ 秒（Xを併記）以下に同調します。その関係は（右上）の通りです。

●フラッシュ撮影組合わせ表（斜線の部分が同調するシャッタースピード）

シャッタースピード		B	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{15}$	$\frac{1}{30}$	$\frac{1}{60}$ X	$\frac{1}{25}$	$\frac{1}{250}$	$\frac{1}{500}$	$\frac{1}{1000}$
シンクロ 接点	FP	FP級バルブ	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
	X	F級バルブ	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
		MF級バルブ	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線
		スピードライト	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線	斜線

（注）■最適スピード

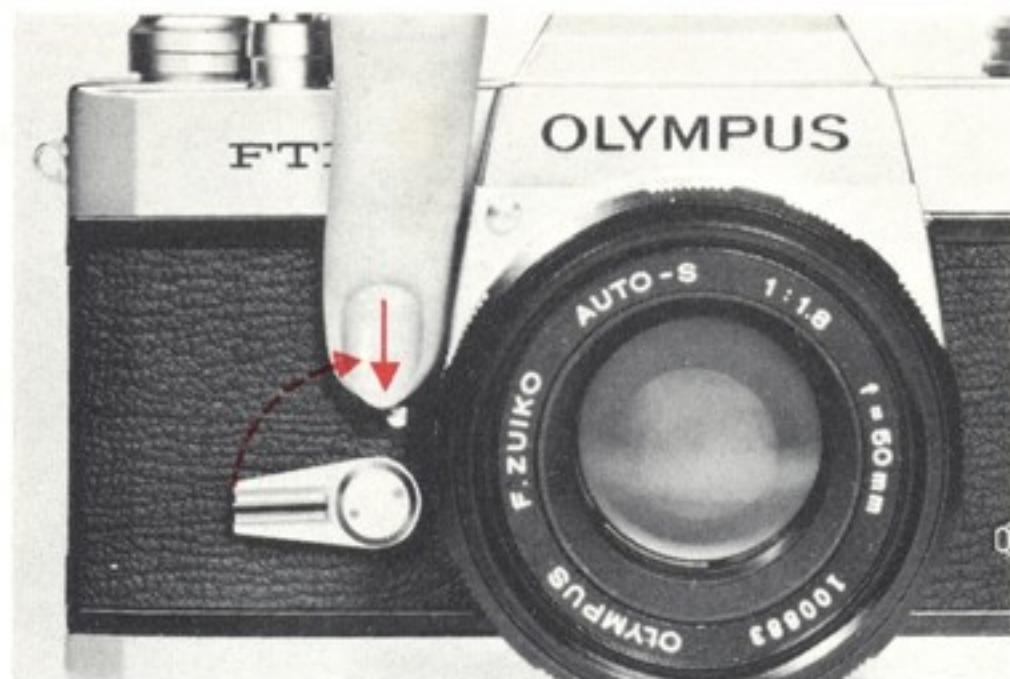
絞りは、一般に $\left(\text{絞り} = \frac{\text{ガイドナンバー}}{\text{距離}} \right)$ の公式から求めます。まず被写体にピントを合わせてそのときの距離を読みとります。その数値で使用するフラッシュやスピードライトのガイドナンバー（フィルム感度やシャッタースピードによっても違う）を割って、その数値に近い絞りを選んでセットしてください。例えばフィルム感度ASA 100、ガイドナンバー40で距離5 mなら、 $40 \div 5 = 8$ ですから絞りは8に合わせます。フラッシュ装置にすでに計算された露出表が付いている場合が多いのでそれに従います。

●セルフタイマーの使いかた



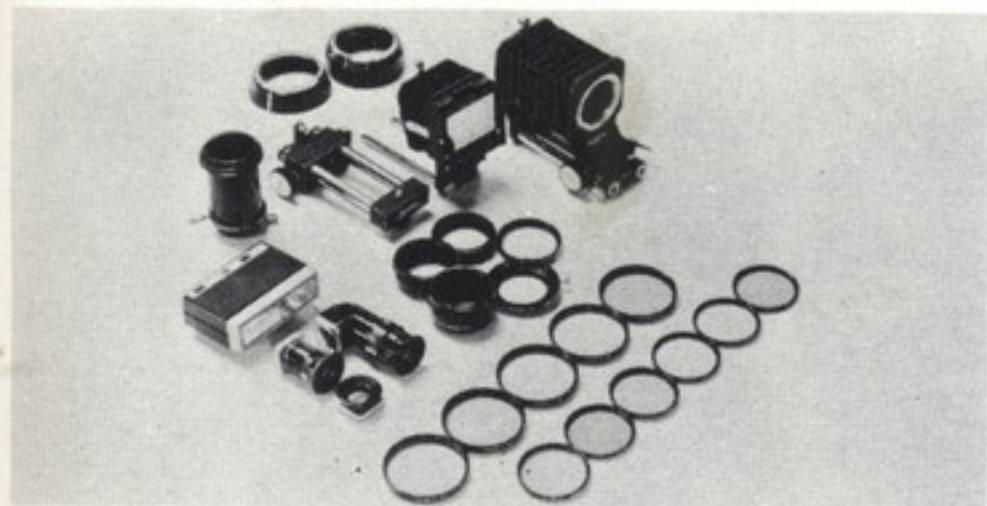
他人の手を借りずにご自分の記念撮影ができる便利なセルフタイマーが内蔵されています。グループでの撮影などにご自分も加わった楽しい思い出がたくさん残せます。

1. セルフタイマーレバーを、写真のように左に止まるまで(約90°)倒すとセットされます。そのときレバーの下になっているスタートボタンが見えます。
2. フィルムが確実に巻上げてあるかどうかを確認します。
3. スタートボタンを押すと作動しはじめ、約10秒後にシャッターが切れます。



- セルフタイマーレバーのセットは、フィルム巻上の前後どちらでも構いません。
- セルフタイマーをセットしたあとでも、リリースボタンを押せば、セルフタイマーを作動させずにシャッターを切ることができます。
- フィルムが確実に巻上げられていないと、セルフタイマーを作動させてもシャッターは切れません。このときはフィルムを確実に巻上げたあと、もう一度レバーをセットし直してからスタートボタンを押してください。

●FTL用各種アクセサリ



- ベローズ..... ¥9,000
- スライドコピヤー..... ¥4,500
- カメラスライダー..... ¥3,000
- リバーリング..... ¥ 500
- エクステンションリングセット..... ¥2,000
- クローズアップレンズ49mm f=30cm..... ¥1,800
- フォトマイクロアダプター..... ¥3,000
- アングルファインダー..... ¥4,000
- マグニファイヤー..... ¥2,000
- アイカップ..... ¥ 500
- フィルター49mm/L39(UV)、Y48(Y2).....各 ¥1,100
- 49mm/スカイライト(IA)、A4(81
 C)、B4(82C).....各 ¥1,200
- 58mm/UV、Y2、IA、81C、82C各 ¥1,500
- フード 1.8/50、1.4/50、2.8/35..... ¥ 800
- フード 3.5/28..... ¥ 800
- オリンパスPS100G..... ¥6,500
- オリンパスフラッシュGL..... ¥ 800

●カメラ保管上のご注意

- カメラの大敵はホコリと湿気です。できるだけ乾燥した空気の流通のよいところに保管してください。そのときシャッターやセルフタイマーは必ず切っておきます。
- カメラは精密機械です。落したり、大きな衝撃を与えないようにしてください。また高温(50℃以上)の場所に長く放置することは避けましょう。低温(-15℃以下)で使用するときには、正規の作動をしないことがありますので、カメラを暖めてから使用してください。
- カメラを、ラジオ・テレビ・その他強い磁石のそばには、長く置かないようにしてください。
- ミラー枠・自動絞り機構・シャッター幕など高速に作動する部分に手をふれたり、異物をはさんだりしてはいけません。特にレンズなどの光学部分には、指をふれないように注意しましょう。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布でふいてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまうます。
- 海岸で撮影したあとは、カメラ表面を柔らかい布でよくふき、塩分などがついたままにしないでください。
- カメラを長期間ご使用にならないときは、水銀電池を取出して保管してください。
- カメラの具合が悪い場合は、保証書を添えてすぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

海外にお出かけの方に

。万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京営業所にご請求いただければ、お送りいたします。

オリンパス光学工業株式会社

国内オリンパス・サービス・ステーション所在地 ※日曜・祭日および第1・第3土曜日は休みます。

東京	151. 東京都渋谷区幡ヶ谷2の43の2	オリンパス光学工業(株)本社内	電話(377) 2111
	101. 東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス商事(株)東京本店内	電話(294) 4411
名古屋	460. 名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株)名古屋支店内	電話(961) 0531
大阪	542. 大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス大阪センター内	電話(252) 6981
福岡	810. 福岡市中央区天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株)福岡支店内	電話(76) 4466
札幌	060. 札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株)札幌営業所内	電話(231) 2320
広島	730. 広島市八丁堀16の11 日本生命第2ビル	オリンパス商事(株)広島営業所内	電話(28) 3821
仙台	980. 仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株)仙台営業所内	電話(25) 6821
金沢	920. 金沢市香林坊2の4の30 五輪ビル	オリンパス商事(株)金沢営業所内	電話(62) 8257
横浜	220. 横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株)横浜営業所内	電話(311) 2041
新潟	950. 新潟市東大通り1の4の1 マルタケビル	オリンパス商事(株)新潟営業所内	電話(45) 7337
静岡	420. 静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株)静岡営業所内	電話(53) 2135

海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U. S. A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA, 2 Nevada Drive New Hyde Park, N. Y. 11040
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH, Steindamm 105, 2 Hamburg 1

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

No. _____